ArcGIS

ArcGIS Enterprise 基本構成 セットアップ ガイド（バージョン 12.x 版）

esri ジャパン

目次

1. はじめに 1

1.1. 本ガイドについて 1

1.2. ArcGIS Enterprise の基本構成 2

1.3. 基本構成の構築フロー 4

1.4. 本ガイドで使用している環境 5

2. 事前準備と環境設定 8

2.1. Web サーバーの準備 9

2.2. サービス URL、完全修飾ドメイン名（FQDN）の準備 11

2.3. ファイアウォールの設定 13

3. Portal for ArcGIS のインストールと初期設定 13

3.1. Portal for ArcGIS のインストール 14

3.2. ポータル サイトの作成 17

3.3. ArcGIS Web Adaptor のインストールおよび構成 21

3.4. ポータル サイトへのサイン インの確認 25

3.5. ポータル サイトのデフォルトの言語設定 26

4. ArcGIS Server のインストールと初期設定 29

4.1. ArcGIS Server のインストール 29

4.2. 新規 ArcGIS Server サイトの作成 37

4.3. ArcGIS Web Adaptor の設定 41

4.4. ArcGIS Server REST ページの確認 47

4.5. 自己署名証明書の警告の非表示設定 48

5. ArcGIS Data Store のインストールと初期設定 52

5.1. ArcGIS Data Store のインストール 52

5.2. ArcGIS Data Store の構成 55

6. Portal for ArcGIS と ArcGIS Server の連携設定 59

6.1. ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録 59

6.2. ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録 62

7. 追加の管理設定 64

7.1. ユーザーの追加と管理 64

7.2. ポータル Web サイトのカスタマイズ 67

7.3. 3D シンボルのインストール 70

7.4. ヘルプの日本語化 71

7.5. リソースの日本語化 74

8. 参考情報 77

8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法 77

8.2. Portal for ArcGIS から ArcGIS Server をフェデレート解除する方法 81

8.3. ヘルプに関する情報 84

1. はじめに

1.1. 本ガイドについて

ArcGIS Enterprise は利用規模に応じて、サーバー 1 台の構成や、それぞれのコンポーネントを分離した複数台構成など柔軟に構築することが可能です。

本ガイドでは、サーバーを複数台使用した基本構成の構築を例として、 ArcGIS Enterprise の基本構成をセットアップする基本的な流れや手順をご説明します。

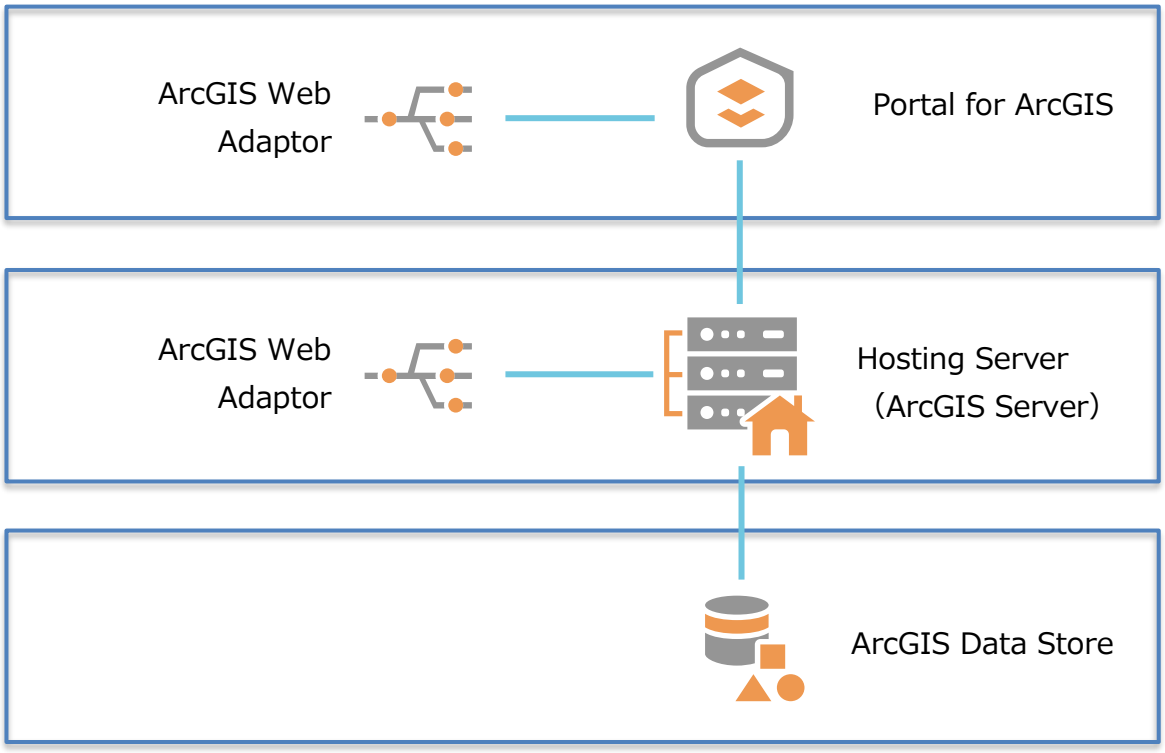
- ArcGIS Server のみのインストールを行いたい場合は、2章の「事前準備と環境設定」と4章の「ArcGIS Server のインストールと初期設定」をご参照ください。

- ⚠️ 本ガイドは、組織内などの閉域ネットワーク環境でのセットアップを前提としています。ArcGIS Enterprise バージョン 11.5 以降、ArcGIS Web Adaptor 経由での ArcGIS Server の管理アクセスがデフォルトで有効化されており、無効化することができません。インターネットに公開される環境においては、ArcGIS Web Adaptor を前提とするのではなく、WAF（Web Application Firewall）を備えたロードバランサーを導入し、管理アクセスを適切に制御するとともに、外部からの不正アクセスや各種攻撃といった脅威からシステムを保護することを推奨します。

  ArcGIS Enterprise における WAF の考え方については、次の資料をご参照ください。
  Web application firewalls | ArcGIS Architecture Center

  また、管理アクセスの制御に関する具体的な構成例については、次のブログをご参照ください。
  WAF(Web Application Firewall) 対応のロードバランサーを利用して ArcGIS Enterprise 管理アクセスを制限する

1.2. ArcGIS Enterprise の基本構成



ArcGIS Enterprise の基本構成とは、以下 4 つのコンポーネントの構成を指します。

・Portal for ArcGIS
・ArcGIS Server
・ArcGIS Data Store
・ArcGIS Web Adaptor

※ArcGIS Web Adaptor は、Portal for ArcGIS および ArcGIS Server それぞれにインストールして設定する必要があります。

※本ガイドは、組織内などの閉域ネットワーク環境でのセットアップを想定しています。インターネット公開環境では、ArcGIS Web Adaptor 経由での ArcGIS Server 管理アクセスがデフォルトで有効となり、無効化できません。そのため、管理アクセスの制御を行う場合は、WAF（Web Application Firewall）に対応したロードバランサーをご利用ください。

各コンポーネントの概要を以下に記載します。

■ **[Portal for ArcGIS]**

マップ ビューアーなど、ポータル サイトの UI を構築するコンポーネントです。また、ユーザーの設定やアイテムの管理など、ポータル サイト全体の管理も担っています。

■ **[ArcGIS Server]**

クライアントからのリクエストに応じて、地図の描画や解析といった処理を行う GIS エンジンとしての役割を果たすコンポーネントです。また、Portal for ArcGIS と統合（フェデレート）することで、ポータル サイト上で解析を行うことが可能になります。

■ **[ArcGIS Web Adaptor]**

Web サーバーを経由して、ポータル サイトや ArcGIS Server に公開しているサービスにアクセスする仕組みを提供するコンポーネントです。また、Active Directory といった組織のアイデンティティ ストアを Web 層レベルで使用することができ、シングル サインオンやその他の認証形式を利用することが可能になります。

■ **[ArcGIS Data Store]**

ホスト フィーチャ レイヤーやホスト シーン レイヤーといったホスト サービスのデータを格納するコンポーネントです。

1.3. 基本構成の構築フロー

本ガイドで構築する、ArcGIS Enterprise 基本構成の構築フローを下図に示します。

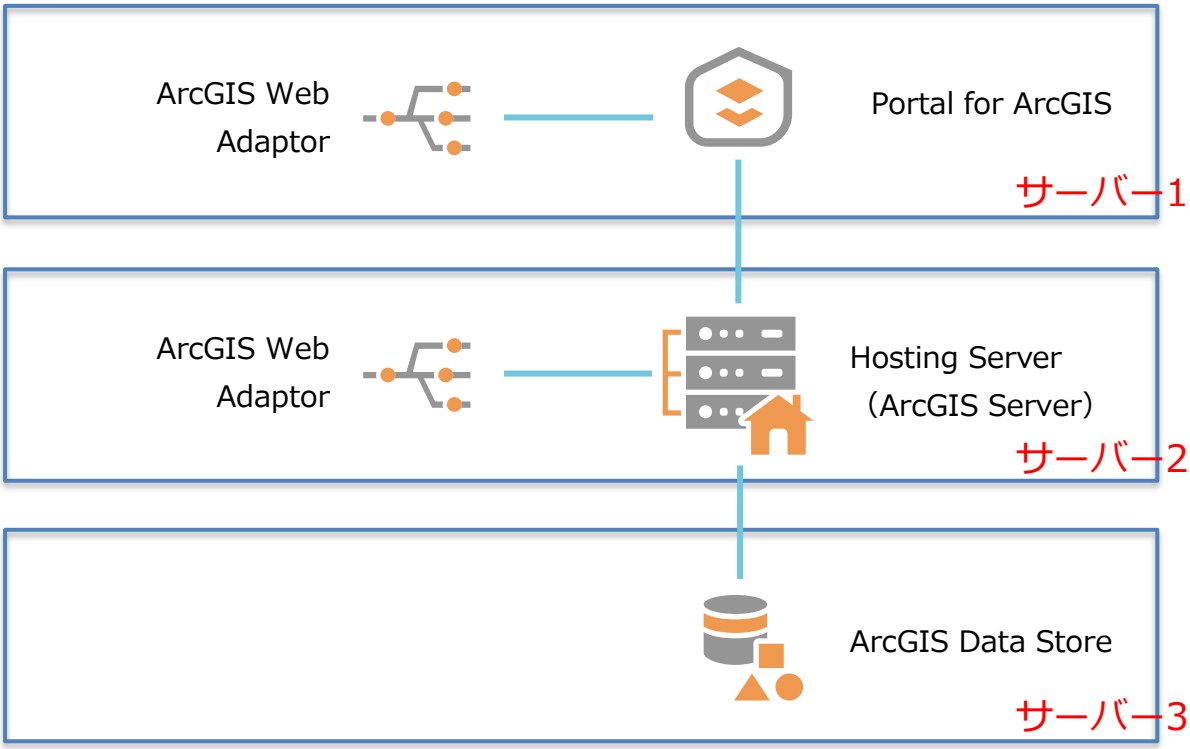
- 1 台のサーバーに ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する場合や、オンプレミスの物理サーバー、仮想サーバーの環境に ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する際も本ガイドと同様の手順で構築することができます。

- ロードバランサーやリバースプロキシを介して Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスする場合や、クラウド環境に ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する場合は、別途設定が必要な場合があります。詳細については、2章の「2.2. サービス URL、完全修飾ドメイン名（FQDN）の準備」で説明します。

1.4. 本ガイドで使用している環境

本ガイドで想定している環境は以下の通りです。

イントラネット環境内の 3 台のサーバーに、ArcGIS Enterprise の基本構成を構築します。



各サーバーの環境情報を下表 ＜各サーバーの環境情報＞ に記載します。

Portal for ArcGIS（サーバー１）と ArcGIS Server（サーバー２）のサービス URL には、2.2 サービス URL、完全修飾ドメイン名（FQDN）の準備 にて記載する手順で FQDN を設定しています。

- 1 台のサーバーに ArcGIS Enterprise の基本構成を構築される場合、各コンポーネントをホストしているマシン名や Portal for ArcGIS および ArcGIS Server のサービス URL の FQDN は同一になりますが、本ガイドと同様の手順で基本構成を構築することが出来ます。上記の場合、以下の章では、マシン名やサービス URL の FQDN を読み替えた上で手順にお進みください。

なお、ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する際は、各コンポーネントのバージョンを統一してください。

＜各サーバーの環境情報＞

	サーバー1	サーバー2	サーバー3
マシン名	svr01	svr02	svr03
サービス URL の FQDN	sv01.myorg.local	sv02.myorg.local	ユーザーのアクセスなし
OS	Windows Server 2025 Standard (64-bit)	左記に同じ	左記に同じ
導入ソフトウェア	ArcGIS Web Adaptor 12.0 Portal for ArcGIS 12.0	ArcGIS Web Adaptor 12.0 ArcGIS Server 12.0	ArcGIS Data Store 12.0
Web Adaptor 名	portal	server	

以下の表は、お客様の環境情報やサービス URL のメモ用にお使いください。

	サーバー1	サーバー2	サーバー3
マシン名			
サービス URL の FQDN			
OS			
導入ソフトウェア			
Web Adaptor 名			

あわせて、各コンポーネントのインストールや初期設定時に必要となる情報のメモ用に以下の表をお使いください。

	アカウント情報
Portal for ArcGIS 実行サービス アカウント	アカウント名： パスワード：
Portal for ArcGIS 初期管理者 アカウント	アカウント名： パスワード：
ArcGIS Server 実行サービス アカウント	アカウント名： パスワード：
ArcGIS Server プライマリ サイト管理者アカウント	アカウント名： パスワード：
ArcGIS Data Store 実行サービス アカウント	アカウント名： パスワード：

- ArcGIS Enterprise 各コンポーネントのシステム要件は、以下のリンクをご参照ください。

  「ArcGIS Enterprise 動作環境」
  https://www.esrij.com/products/arcgis-enterprise/environments/

2. 事前準備と環境設定

ArcGIS Enterprise の基本構成を構築する前に、以下の項目を準備しておく必要があります。本ガイドでは、各項目を設定するための手順は省略し、各項目が設定されていることを確認するための手順を記載します。

- 2.1. Web サーバーの準備
- 2.2. サービス URL、完全修飾ドメイン名（FQDN）の準備
- 2.3. ファイアウォールの設定

基本構成の構築に必要な各コンポーネントのインストーラーおよびライセンス ファイルの一覧を以下に記載します。構築の前に以下のファイルがあることをご確認ください。

Portal for ArcGIS と ArcGIS Server、ArcGIS Data Store のインストーラーは .exe 拡張子と exe.001 拡張子を持つ 2 ファイルの構成になりました。

インストール時は両方のファイルが同じフォルダー内にあることをご確認ください。

- 各コンポーネントのインストーラー
  - Portal_for_ArcGIS _Windows_<バージョン>_<number>.exe
  - Portal_for_ArcGIS _Windows_<バージョン>_<number>.exe.001
  - ArcGIS_Web_Adaptor_for_Microsoft_IIS_<バージョン>_<number>.exe
  - ArcGIS_Server_Windows_<バージョン>_<number>.exe
  - ArcGIS_Server_Windows_<バージョン>_<number>.exe.001
  - ArcGIS_DataStore_Windows_<バージョン>_<number>.exe
  - ArcGIS_DataStore_Windows_<バージョン>_<number>.exe.001
- 必要なライセンス ファイル、認証番号
  - Portal for ArcGIS 指定ユーザー ライセンス ファイル（json 形式のファイルです）
  - ArcGIS Server ライセンス（prvc ファイル、ecp ファイル、あるいは ECP で始まる 12 桁の認証番号です）

- ArcGIS Server および Portal for ArcGIS のライセンス ファイルの取得方法は契約タイプによって異なるので、ライセンス ファイルを取得される際は、ライセンスコンファメーションおよび送付状をご確認ください。

2.1. Web サーバーの準備

ArcGIS Enterprise を構築する際、Portal for ArcGIS と ArcGIS Server それぞれに ArcGIS Web Adaptor をインストールするため、それぞれの環境に Web サーバーをインストールします（別途 Web サーバー用にサーバーを用意して、そちらに ArcGIS Web Adaptor を構成することも可能です）。Portal for ArcGIS や ArcGIS Server は独自のポートを使用しますが、独自ポートは管理用に利用されるため、管理用ポートでユーザーがアクセスする状態は IT ポリシー上好ましくなく、加えて、ポータルでは、管理用ポートではすべての構成を行うことが許可されていません。Portal for ArcGIS および ArcGIS Server それぞれに ArcGIS Web Adaptor を設定することで、独自のポートではなく、Web サーバーにアクセスする際に使用する一般的なポート（80、443 番）を使用してポータル サイトや ArcGIS Server に公開しているサービスにアクセスすることが可能になります。具体的には、クライアントからのリクエストは Web サーバーに送られるようになり、ArcGIS Web Adaptor がそのリクエストを Portal for ArcGIS や ArcGIS Server に転送します（ArcGIS Web Adaptor は、リクエストの転送だけでなく、ロードバランサーとしての役割も果たします）。
本ガイドでは Web サーバーとして IIS を利用しますが、ArcGIS Web Adaptor では以下の IIS の機能が必要です。IIS のダッシュボードから [役割と機能の追加] ページで、以下の機能にチェックを入れたうえで IIS のインストールを行ってください（IIS のインストール手順は OS で共通です。また、IIS に必要な機能がインストールされていない場合でも、ArcGIS Web Adaptor インストール時にこれらの機能もインストールされます）。なお、本ガイドでは、サーバー1 とサーバー2 に ArcGIS Web Adaptor をインストールするので、それぞれのサーバーに IIS をインストールします。

- IIS に必要な機能のうち、「.NET 拡張機能」および「ASP.NET」は、使用する OS や .NET Framework のインストール状況によってバージョンが異なります。

・Web サーバー
　・HTTP 共通機能
　　・既定のドキュメント
　　・静的コンテンツ
　・セキュリティ
　　・要求フィルター
　　・Windows 認証
　・アプリケーション開発
　　・ISAPI 拡張機能
　　・ISAPI フィルター
　　・WebSocket プロトコル

・管理ツール

・IIS 管理コンソール

また、ArcGIS Enterprise を構築する場合、Portal for ArcGIS および ArcGIS Server 用にインストールする ArcGIS Web Adaptor に対して、ポート 443 で HTTPS/SSL (Secure Sockets Layer) 通信を許可するように設定します。Web Adaptor と Portal for ArcGIS または ArcGIS Server 間、クライアントと Web Adaptor 間の通信を暗号化するには、事前に Web サーバーに設定する SSL 証明書 (サーバー証明書) が必要となります。証明書には、CA 署名、ドメイン署名、自己署名の 3 種類があります。
初期テストを実行するために自己署名証明書を使用することもできますが、自己署名証明書は、ユーザーに対して予期しない結果やパフォーマンスの低下を引き起こす可能性があるため、実際の運用環境においては、CA 署名またはドメイン署名のいずれかのご使用をお勧めします。なお、本ガイドでは、事前に自己署名証明書を使用するよう設定した環境を利用しています。IIS にサーバー証明書の設定を行い、HTTPS/SSL 通信が行えるように設定する方法については「Web サーバーで HTTPS を有効化」を参考に行ってください。

- IIS 上でサーバー証明書をポート 443 にバインドする際、ホスト名は空文字にします。

- ポート 80/443 番が別のアプリケーションで使用されている場合は、これら以外のポートを使用して ArcGIS Web Adaptor を構成する必要があります。ポート 80/443 番以外のポートを使用して ArcGIS Web Adaptor を構成する方法については以下のヘルプをご参照ください。
  「ポータルの ArcGIS Web Adaptor に対するデフォルト以外のポートの使用」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/use-a-non-default-port-for-the-portal-s-web-adaptor.htm

- SSL 証明書についての詳細は、以下のヘルプをご参照ください。
  「Web サーバーで HTTPS を有効化」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/enable-https-on-your-web-server-portal-.htm

Web サーバーを構築したら、Web サーバーにアクセスできるか動作確認を行ってください。以下では、IIS の動作確認を行う手順を記載します。

1. Web サーバーがインストールされているマシンで Web ブラウザーを開いて、以下の URL を入力してください。
   http://localhost (ポート番号 80)
   https://localhost (ポート番号 443)

正常に動作している場合、IIS の画面が表示されます。

2. 次に、Web サーバーをホストするマシンとは別の、クライアント マシンのブラウザーから IIS にアクセスできるか確認します。クライアントのマシンで Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力してください。
   http://<Web サーバーの FQDN>
   https://<Web サーバーの FQDN>

正常に動作している場合、IIS の画面が表示されます。上記の URL にアクセスできない場合は、ファイアウォールや Windows ファイアウォールでポート 80、443 の通信が許可されているかご確認ください。

なお、Portal for ArcGIS および ArcGIS Server それぞれに ArcGIS Web Adaptor を設定する場合、ユーザーが Portal for ArcGIS および ArcGIS Server のエンド ポイントそれぞれにアクセスする際には、https://<FQDN>/webadaptorname/ でアクセスすることになります。
デフォルトでは、上記の [webadaptorname] には、[arcgis] が設定されますが、それぞれ分かりやすい名前を設定することをお勧めします。

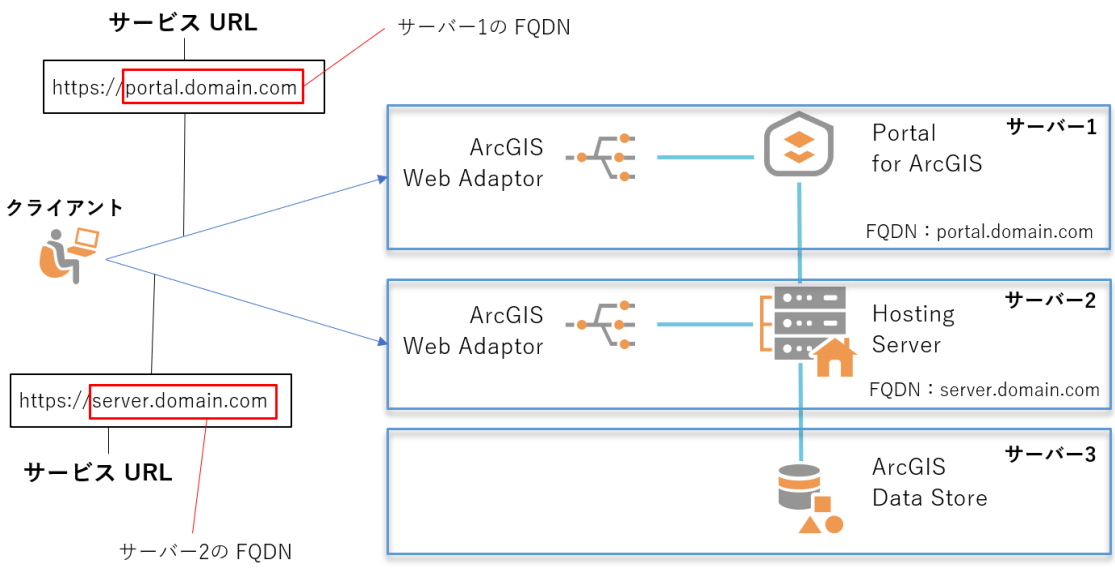
2.2. サービス URL、完全修飾ドメイン名（FQDN）の準備

前節で説明した通り、ユーザーは ArcGIS Web Adaptor を介して Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスしますが、アクセス時に使用する URL をサービス URL と言い、Portal for ArcGIS にアクセスする場合、サービス URL に FQDN を設定する必要があります。そのため、内部 DNS などを使用して、Portal for ArcGIS をインストールするサーバーの FQDN (例：portal.domain.com) を設定し、Portal for ArcGIS にアクセスする際には、その FQDN を使用してサーバーにアクセスできることを確認する必要があります（サーバーに portal.domain.com という名前の FQDN を設定した場合、サービス URL は https://portal.domain.com となります)。また、ArcGIS Server においても、Portal for ArcGIS と連携する際には、CORS の制約なども考慮して、FQDN を設定することを推奨しています。
FQDN を使用してサーバーにアクセスできるかを確認する際は、以下の ping コマンドをコマンド プロンプトで実行することでサーバーにアクセスできるかを確認することができます。各サーバーで ping の要求を受け入れるように設定し、各サーバーに疎通ができるかどうかを ping コマンドを使用して確認し

ていただくことをお勧めします。

・コマンド例（サーバーの FQDN が portal.domain.com の場合）

```
ping portal.domain.com
```



クライアントが ArcGIS Web Adaptor をインストールしている Web サーバーの URL をエンドポイントに、Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスする場合、サービス URL の FQDN は ArcGIS Web Adaptor をインストールしている Web サーバーの FQDN になります（本ガイドで想定している環境です）。この場合、Web サーバーおよび Portal for ArcGIS、ArcGIS Server をインストールしているマシンに FQDN を設定し、本ガイドの手順に従って ArcGIS Enterprise の基本構成の構築を行います。

Web サーバーの URL とは別の URL で Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスする場合は、別途設定が必要になります。別の URL で Portal for ArcGIS や ArcGIS Server にアクセスするケースは、主に以下のケースです。

・ロードバランサー（LB）やリバース プロキシを介してアクセスする場合

・クラウド環境に ArcGIS Enterprise を構築する場合（サービス URL のホストが、各種クラウドで提供するパブリック DNS（パブリック ホスト）である場合や、別途パブリック DNS サーバーに URL ホストを登録するケースになります）

この場合、Web サーバーや Portal for ArcGIS 、ArcGIS Server をインストールしているマシンに FQDN を設定し、本ガイドの 3、4 章までの手順を行い、ArcGIS Web Adaptor と Portal for ArcGIS、ArcGIS Server を連携します。連携後、「8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法」に記載の手順に従って、WebContextURL パラメータに、クライアントのアクセス エンドポイントの URL を指定します。指定後は、本ガイドの 5 章以降の手順に従って、ArcGIS Enterprise の基本構成の構築を行います。

- Portal for ArcGIS および ArcGIS Server の管理設定を行う際に使用する URL（管理 URL）については FQDN でアクセスする必要はありません（マシン名のみでアクセス可能です）。

2.3. ファイアウォールの設定

Portal for ArcGIS、ArcGIS Server および ArcGIS Data Store では、さまざまなポートを使用して通信を行います。そのため、インストール後、各種コンポーネントの連携の設定を行う前に、事前に各コンポーネントがインストールされているサーバーのファイアウォールで、それらのポートによるサーバー間の通信を許可するよう設定する必要があります（これらのポートはファイアウォールの初期設定では通信を許可するように設定されていないため）。また、これらのポートが他のアプリケーションによって使用されている場合、そのアプリケーションが別のポートを使用するように変更する必要があります。
下表に、基本構成において、各コンポーネントで使用するポートを記載します。

コンポーネント	使用するポート
Portal for ArcGIS	7080、7443
ArcGIS Server	6080、6443
ArcGIS Data Store	2443、9876、29080、29081

そのほか、冗長化構成時や内部利用でのみ利用するポートもあります。各コンポーネントで使用されるポートの詳細については以下のリンクをご参照ください。

- 「Portal for ArcGIS で使用されるポート」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/install/windows/ports-used-by-portal-for-arcgis.htm
- 「ArcGIS Server で使用されるポート」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/install/windows/ports-used-by-arcgis-server.htm
- 「ArcGIS Data Store で使用されるポート」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/data-store/latest/install/windows/ports-used-by-arcgis-data-store.htm

3. Portal for ArcGIS のインストールと初期設定

本章では、サーバー1 に Portal for ArcGIS 12.0 をインストールし、ポータル サイトを作成するまでの手順を説明します。ポータル サイト作成までの手順は以下になります。

・3.1. Portal for ArcGIS のインストール
・3.2. ポータル サイトの作成

・3.3. ArcGIS Web Adaptor （Portal 用）のインストールと構成
・3.4. ポータル サイトへのサイン インの確認
・3.5. ポータル サイトのデフォルトの言語設定

3.1. Portal for ArcGIS のインストール

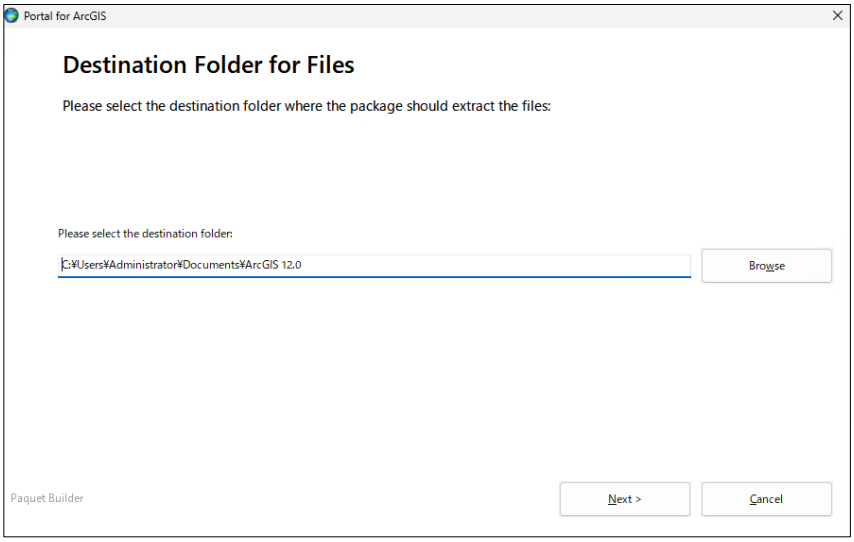
- Portal for ArcGIS のインストールを行うアカウントは、コンピューターの管理者権限を持つ必要があります。

- 本ガイドは、Portal for ArcGIS のインストーラーをダウンロードしてインストールする場合を想定しております。ISO ファイルをダウンロードしてインストールする場合は、ArcGIS Enterprise の ISO ファイルに含まれている Portal for ArcGIS のインストーラーを使用してください。製品メディアからインストールする場合は、製品メディアに含まれている Portal for ArcGIS のインストーラーを使用してください。

3. My Esri からダウンロードした Portal for ArcGIS のインストーラーをダブルクリックして、インストーラーを展開します。以下のウィンドウが表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し、[Next] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。

   Portal_for_ArcGIS _Windows_<バージョン>_<number>.exe

   Portal_for_ArcGIS _Windows_<バージョン>_<number>.exe.001

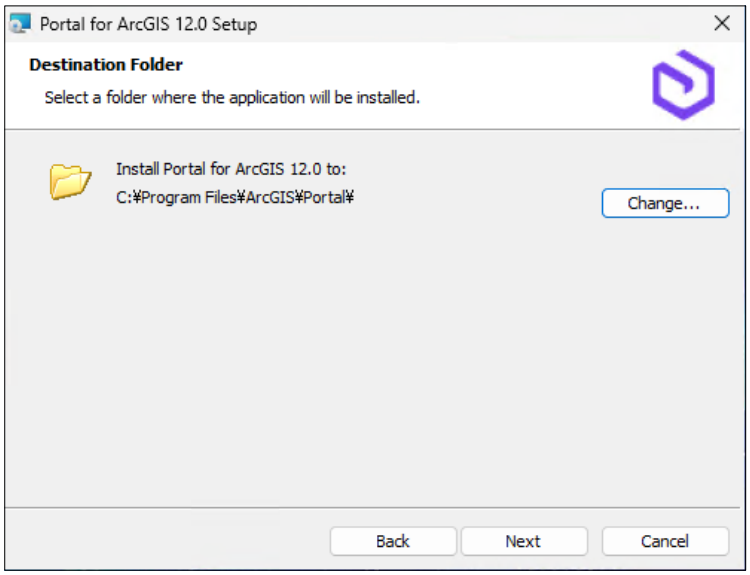


4. インストーラーの展開の終了と同時に表示されるウィンドウにて、[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックすると、インストーラーが起動します。

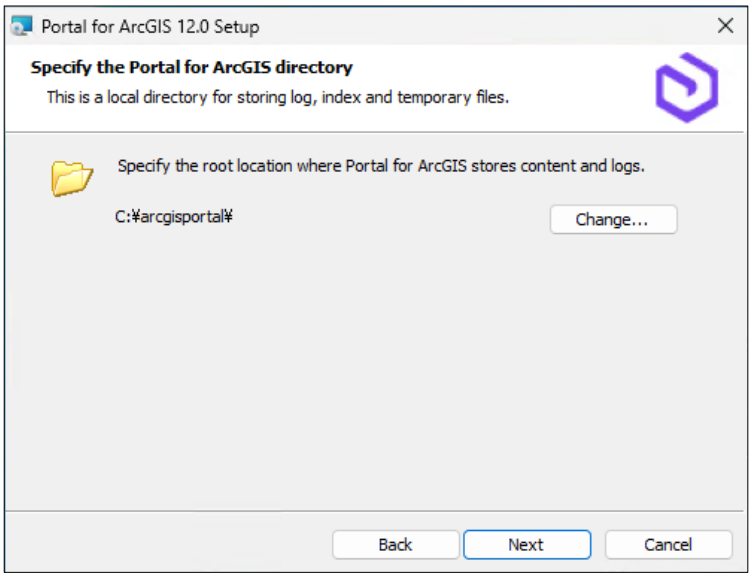
5. [Next] をクリックします。

6. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は、[I accept the license agreement] を選択し、[Next] をクリックします。

7. インストール先を選択し、[Next] をクリックします。



8. Portal for ArcGIS のコンテンツ ディレクトリを指定し、 [Next] をクリックします。



- インストール時に、コンテンツ ディレクトリの場所を指定する際は、ローカル ディレクトリである必要があります。ここでは、共有ネットワーク ディレクトリを選択することはできません。これは、Portal for ArcGIS サービスがデフォルトでは Windows 固有のローカル システム アカウントで実行されるように構成されているためです (ローカル システム アカウントは、ネットワーク ロケーションにアクセスできません)。
  インストール後、Portal for ArcGIS を実行するために使用するアカウントを変更することもできます。適切な権限のあるアカウントを使用して Portal for ArcGIS を実行することで、コンテンツ ディレクトリをローカル ディレクトリから共有ネットワーク ロケーションに変更することができます。

  「ポータル コンテンツ ディレクトリの変更」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/changing-the-portal-content-directory.htm

9. Portal for ArcGIS のプロセスを実行するサービス アカウントを指定します。アカウント名とパスワードを入力し、[Next] をクリックします。

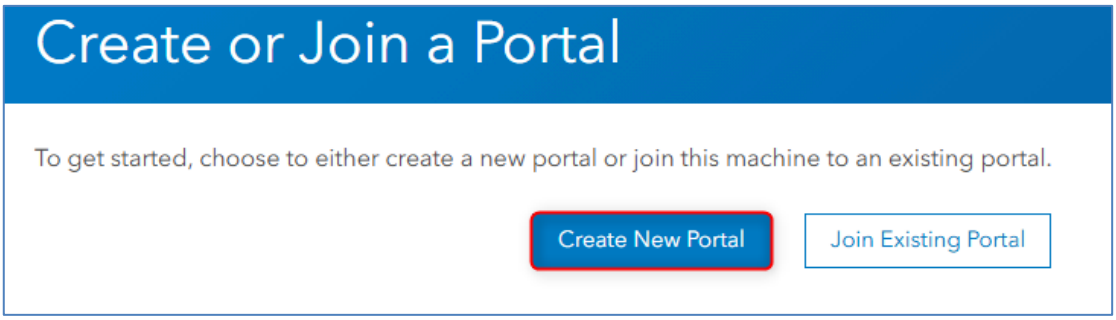
10. サーバー構成ファイルを出力するかを指定します。本ガイドではデフォルトの [Do not export configuration file.] を選択しますが、必要に応じて設定を変更してください。設定後、[Next] をクリックします。

11. [Install] をクリックしてインストールを開始します。

インストールに成功すると、インストールが完了したことを示すウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックしてインストールを終了します。

3.2. ポータル サイトの作成

セットアップが終了すると、Portal for ArcGIS の組織サイト (以下、ポータル サイトと呼びます) が起動します。インストール直後は以下のようなページが表示されますので、既存のポータル サイトに参加するか、新しくポータル サイトを作成するかを選択します。本ガイドでは、新しくポータル サイトを作成するため、[CREATE NEW PORTAL] をクリックします。



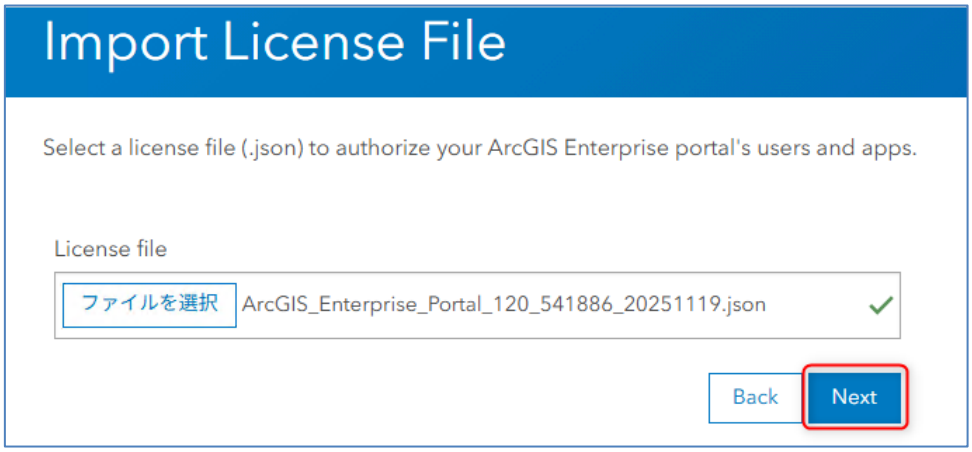
- ポータル サイトを表示するためには、Web ブラウザーで JavaScript が有効になっている必要があります。

- Web ブラウザーにて、Web サイトのセキュリティ証明書に関する警告が表示された場合は、内容を確認後、閲覧を続行するように操作します。

  ポータル サイトは、英語表記で表示されますが、言語設定を行うことで日本語表記に変更することができます。言語設定の手順については、「ポータル サイトのデフォルトの言語設定」をご参照ください。

1. ポータルのライセンス ファイルを選択する画面が表示されます。[ファイルを選択] をクリックしてライセンス ファイルを選択します。選択後に [Next] をクリックします。

- ArcGIS Enterprise では、ユーザー タイプ、アプリ バンドル、およびアドオン アプリを含むポータル ライセンスが 1 つの json ファイルを使用して管理されます。ユーザー タイプやロールについては、[7.1. ユーザー追加と管理] をご参照ください。



2. ポータル サイトにサイン インするための初期管理者アカウントを作成します。ユーザー名、パスワード、ユーザー タイプを設定して、[Next] をクリックします。

   初期管理者アカウントのユーザー名とパスワードに含めることのできる ASCII 文字は、以下に制限されます。

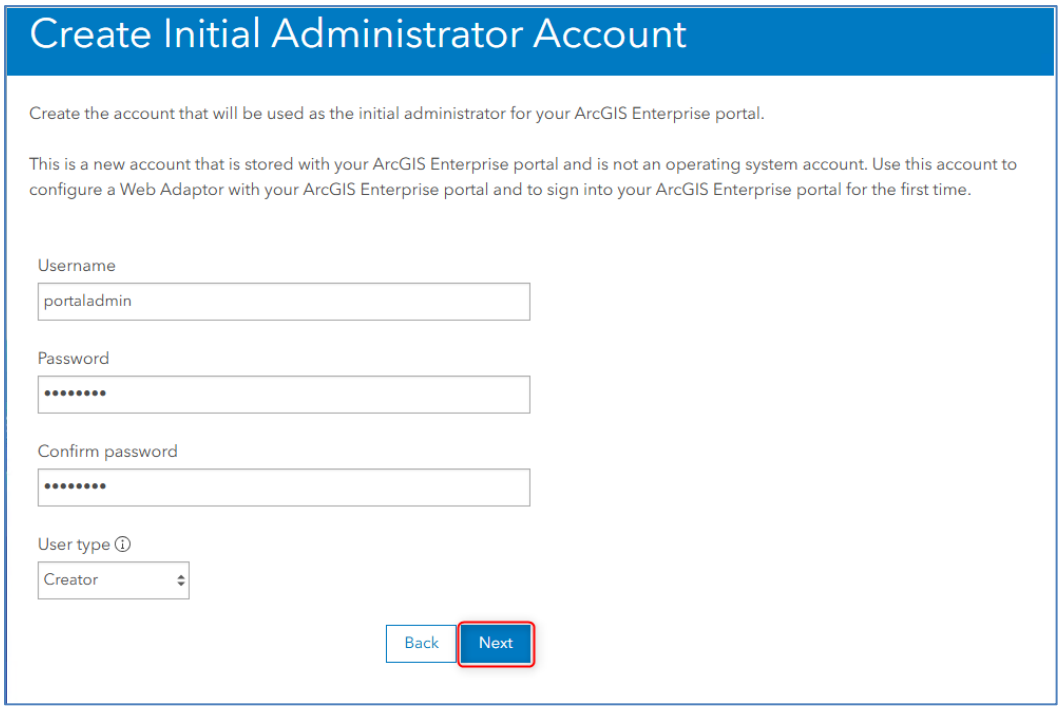
   - 0 ～ 9 の数字
   - A ～ Z の ASCII 文字 (大文字および小文字)
   - ドット (.)

   初期管理者アカウント作成後、パスワード ポリシーの変更を行うことができます。

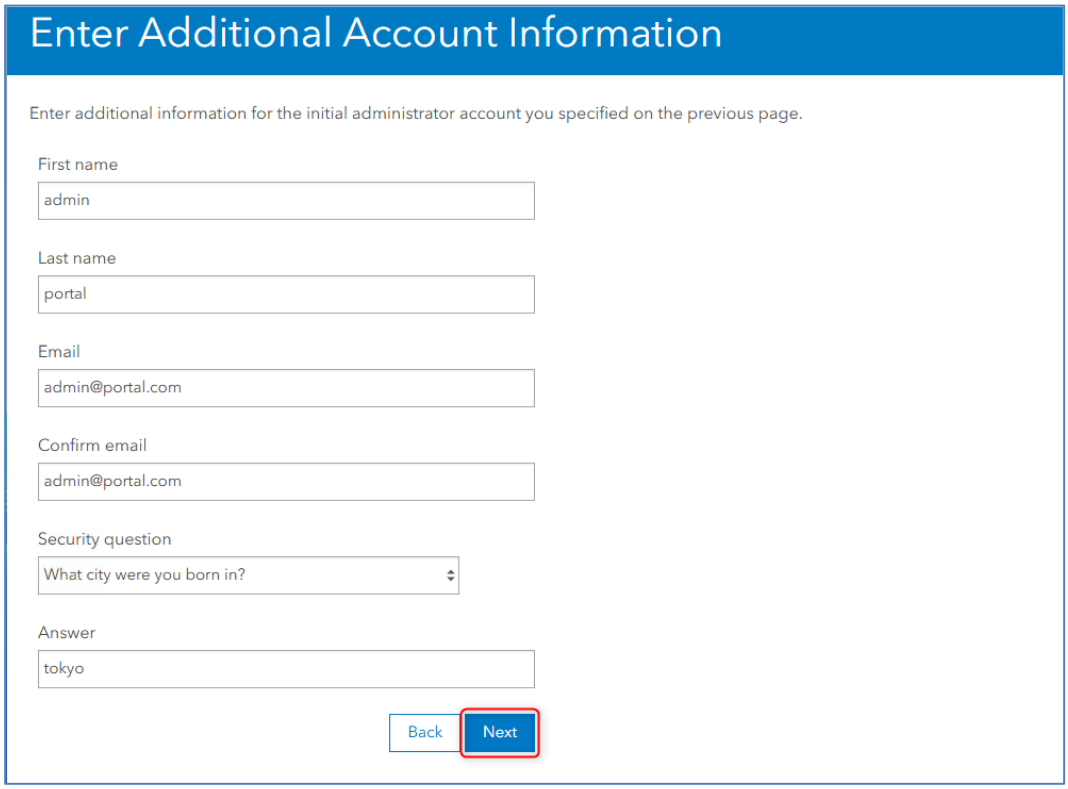
- Portal for ArcGIS を構成するためには、ライセンス ファイルに、管理者ロールに対応しているユーザー タイプ ライセンスを 1 つ以上含める必要があります。

- 初期管理者アカウントについての詳細な情報は、以下のヘルプをご参照ください。

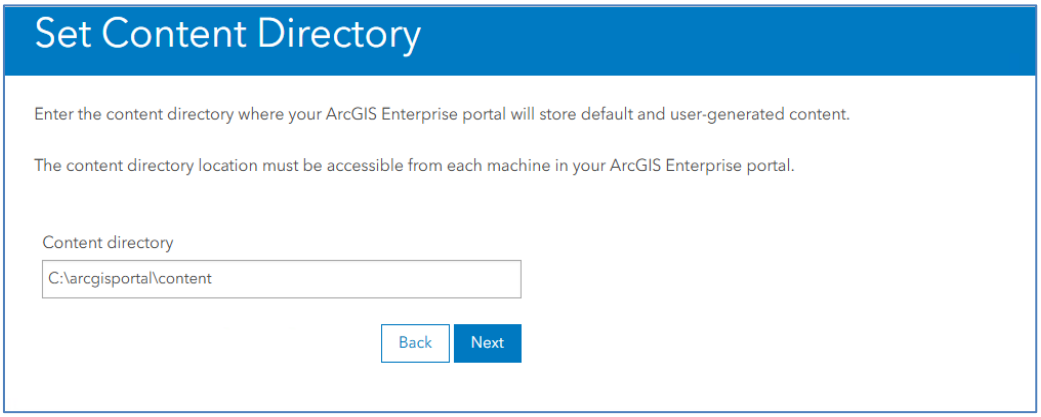
  「初期管理者アカウントについて」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/about-the-initial-administrator-account.htm



3. 初期管理者の名前、E-mail アドレス、本人に関する質問と答え (パスワードを忘れた場合に使用) を半角英数字 (名前のみ全角文字を使用可) で設定して、[Next] をクリックします。



4. Portal for ArcGIS のコンテンツ ディレクトリを指定します。本ガイドでは、デフォルトのディレクトリを使用します。[Next] をクリックします。



- コンテンツ ディレクトリの変更が必要な場合は、適宜変更してください。指定する場所は、ローカル ディレクトリである必要があります。ここでは、共有ネットワーク ディレクトリを選択することはできません。これは、Portal for ArcGIS サービスがデフォルトでは Windows 固有のローカル システム アカウントで実行されるように構成されているためです (ローカル システム アカウントは、ネットワーク ロケーションにアクセスできません)。インストール後、Portal for ArcGIS を実行するために使用するアカウントを変更することもできます。適切な権限のあるアカウントを使用して Portal for ArcGIS を実行することで、コンテンツ ディレクトリをローカル ディレクトリから共有ネットワーク ロケーションに変更することができます。

  「ポータル コンテンツ ディレクトリの変更」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/changing-the-portal-content-directory.htm

5. 確認ページが表示されます。問題なければ [Create] をクリックします。Portal for ArcGIS の再起動には数分を要する場合があります。
6. Portal for ArcGIS の再起動が完了すると、ポータル サイトにアクセスするには ArcGIS Web Adaptor のインストールと構成が必要であることを示すページが起動します。ブラウザーを閉じます。

以上で、ポータル サイトの作成は完了です。

3.3. ArcGIS Web Adaptor のインストールおよび構成

引き続き、Portal for ArcGIS 用の ArcGIS Web Adaptor (以下、Web Adaptor) のインストールおよび構成を行います。本ガイドでは、Portal for ArcGIS をインストールしたサーバー（サーバー1）に Web Adaptor をインストールします。

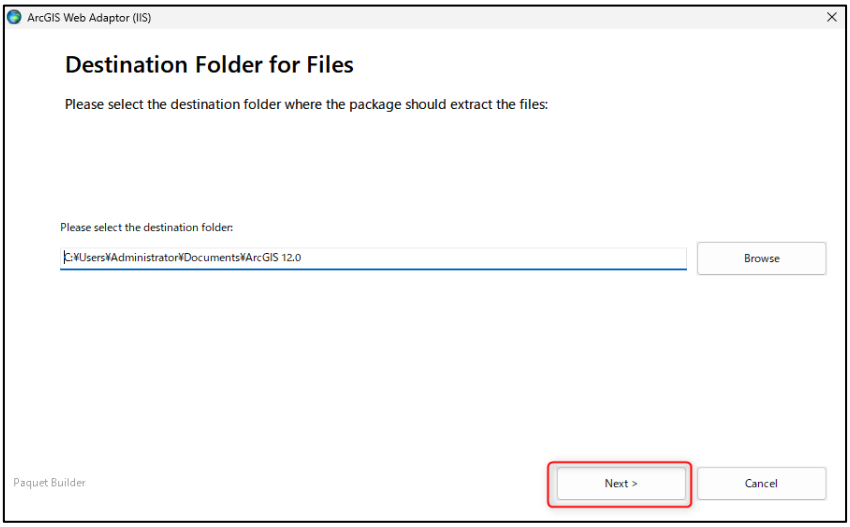
- ArcGIS Web Adaptor(IIS) をインストールするコンピューターには、前提条件として以下をインストールしている必要があります。

  - Microsoft Web Deploy 4.0
  - ASP.NET Core Runtime - Windows Hosting Bundle 8.x

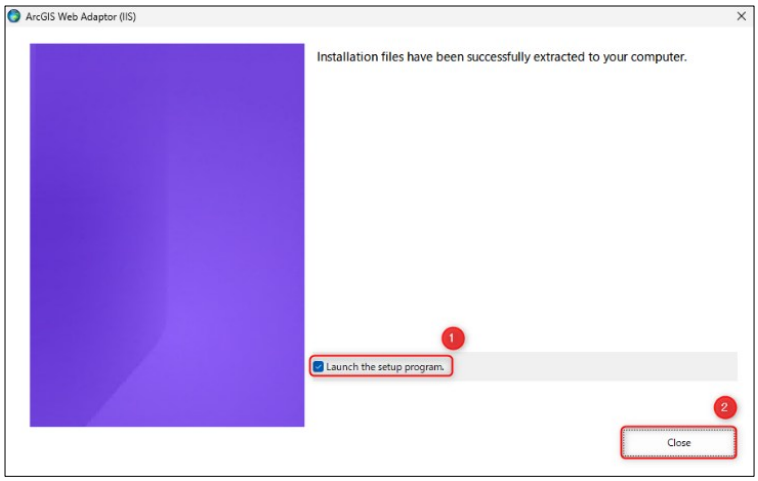
  詳細な情報は以下のヘルプ ページをご覧ください。
  「ArcGIS Web Adaptor のシステム要件」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/system-rvequirements/latest/windows/arcgis-web-adaptor-system-requirements.htm

7. My Esri からダウンロードした Web Adaptor のインストーラーをダブルクリックし、インストーラーを展開します。以下のウィンドウが表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し、[Next] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。

   ArcGIS_Web_Adaptor_for_Microsoft_IIS_<バージョン>_<number>.exe



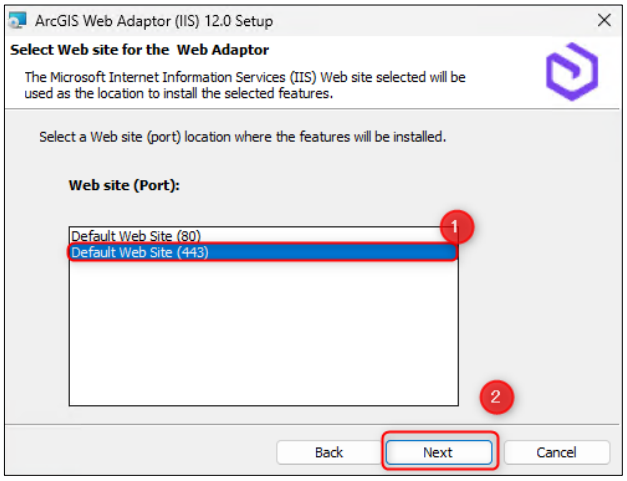
8. 展開が終わると下図が表示されます。[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックします。[Close] をクリックすると、インストーラー起動します。



9. [Next] をクリックします。

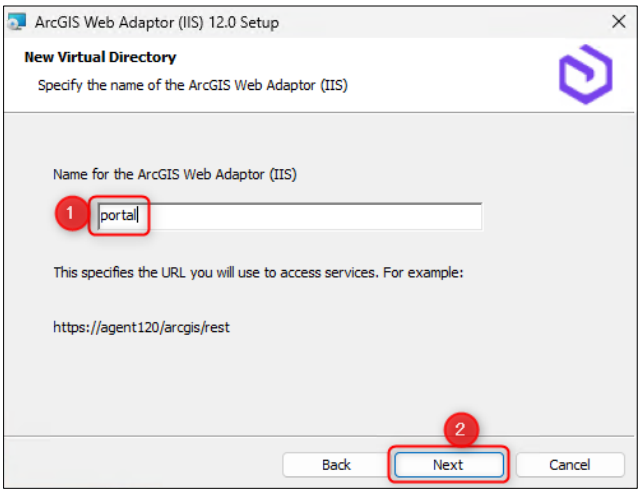
10. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は [I accept the master agreement] を選択し、[Next] をクリックします。

11. Web Adaptor の Web サイトを選択し、[Next] をクリックします。ここでは HTTPS（ポート 443）のサイトを選択します。



- Web サイトが 1 つしか存在しない場合および SSL 設定がされていない場合は、[Web Adaptor の Web サイトの選択] ダイアログは表示されません。また、Portal for ArcGIS との通信では https 通信を使用するので、あらかじめ Web サーバー上で https 通信を有効化しておく必要があります。

12. Web Adaptor の名前を入力します。デフォルトは「arcgis」です。本ガイドでは、Portal for ArcGIS 用の Web Adaptor の名前を「portal」と設定します。[Next] をクリックします。



- 選択した Web サイトに、指定した Web Adaptor の名前と同じ仮想ディレクトリが既に存在する場合、メッセージが表示されるので [OK] をクリックし、Web Adaptor に異なる名前を入力してください。

13. [Install] をクリックしてインストールを開始します。

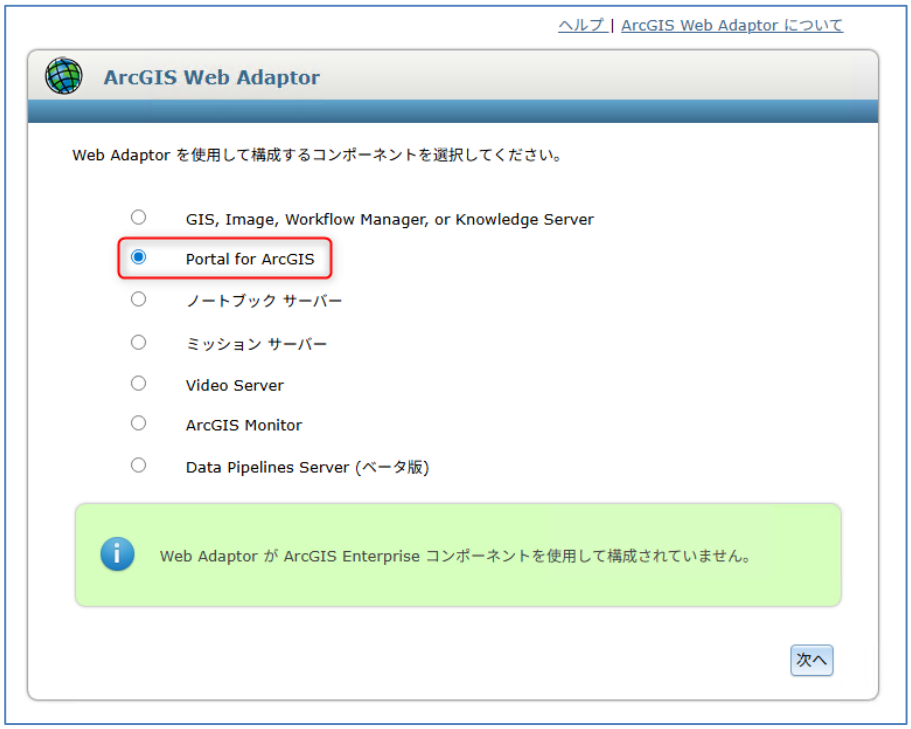
14. [Finish] をクリックしてインストールを終了します。

15. インストールした Web Adaptor と Portal for ArcGIS を連携する設定を行います。
※連携する設定を行う前に、サービス URL が、Web Adaptor をホストしているマシンの内部 IP アドレスで接続できることをご確認ください。

Web Adaptor をホストしているマシン上の Web ブラウザーで以下の URL にアクセスし、Web Adaptor の構成ページを開きます。
https://< サービス URL >:< ポート番号 (443 ではない場合)>/< Web Adaptor 名>/webadaptor

本ガイドでは、サーバー1（portal.domain.com）に Web Adaptor 名が portal の Web Adaptor をインストールしたので、構成ページの URL は以下になります。
https://portal.domain.com/portal/webadaptor

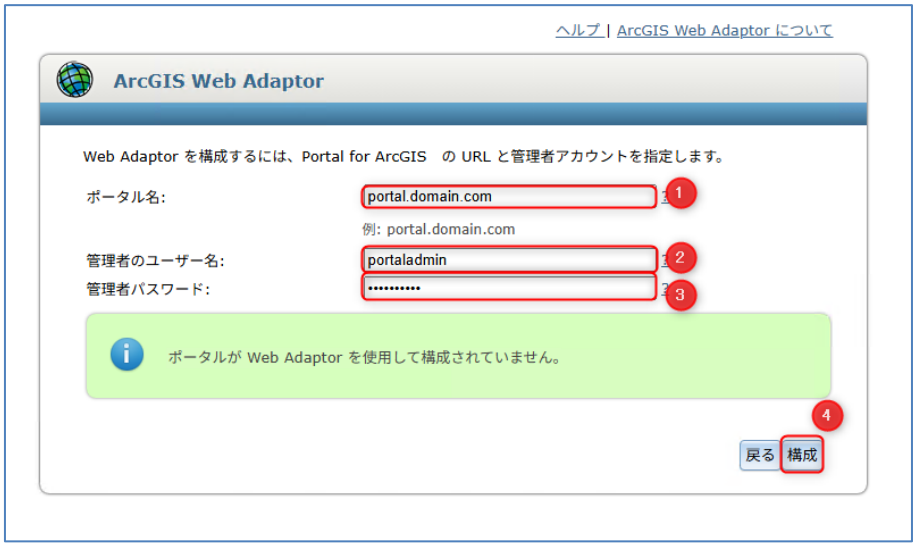
16. [Portal for ArcGIS] を選択し、[次へ] をクリックします。



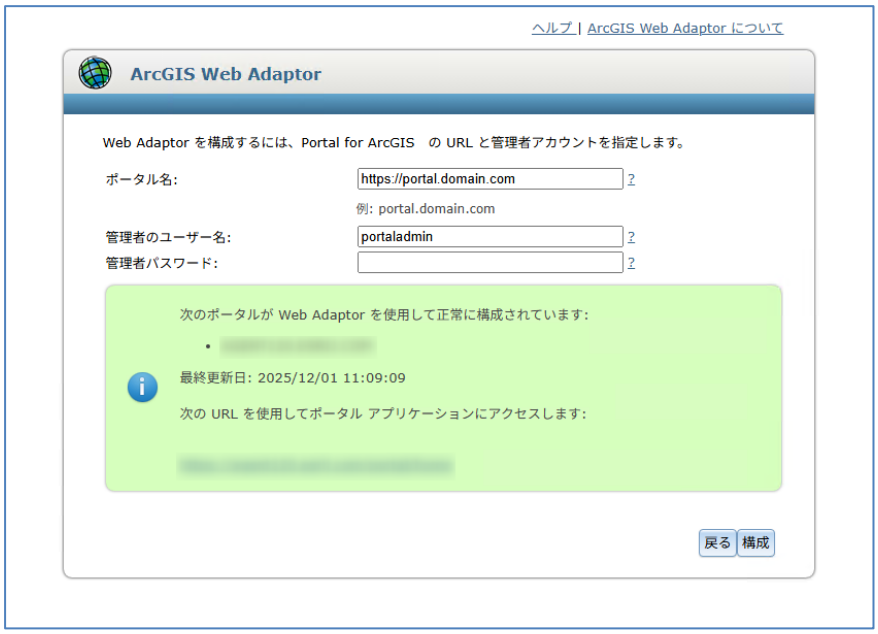
17. ポータルの URL には、Portal for ArcGIS をホストするサーバーの FQDN を入力します。管理者のユーザー名とパスワードは、Portal for ArcGIS インストール後に定義した初期管理者ユーザー名とパスワードを入力します。本ガイドでは、サーバー1（portal.domain.com）に Portal for ArcGIS をホストしているので、FQDN は以下になります。

portal.domain.com

- Web Adaptor をホストしているサーバー上で上記の Portal for ArcGIS の管理用 URL にアクセスできるかご確認ください。



18. [構成] をクリックして、Web Adaptor に設定を適用します。これによって、Web Adaptor で認識されている Portal for ArcGIS のリストが表示されます。
以上で Web Adaptor の構成は完了です。

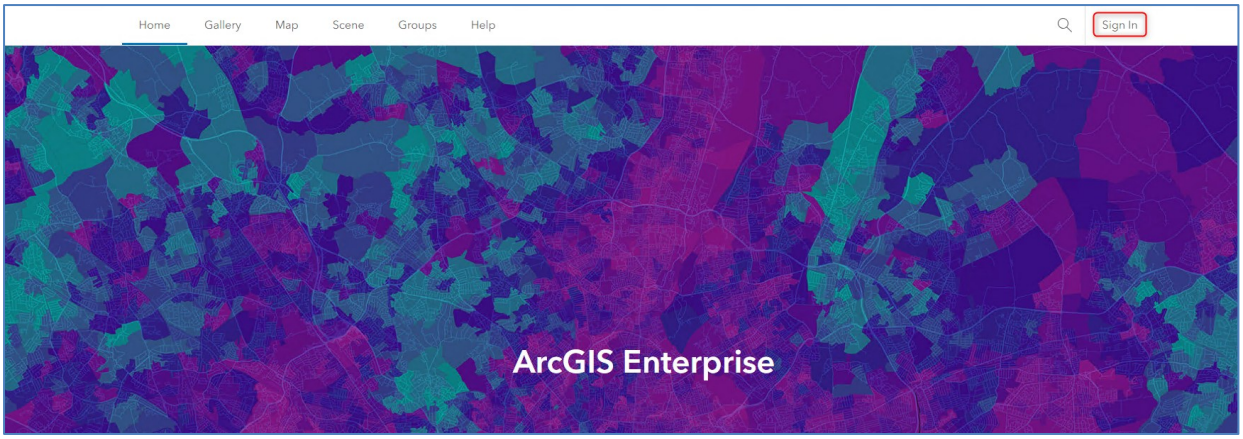


クラウド環境に ArcGIS Enterprise を構築する場合や、ロードバランサーやリバースプロキシを介して Portal for ArcGIS にアクセスする場合、上記の手順を行った後、「8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法」に記載の手順を行う必要があります。これらのケースに該当する場合は、当該手順を行います。これらのケースに該当しない場合は以下の手順にお進みください。

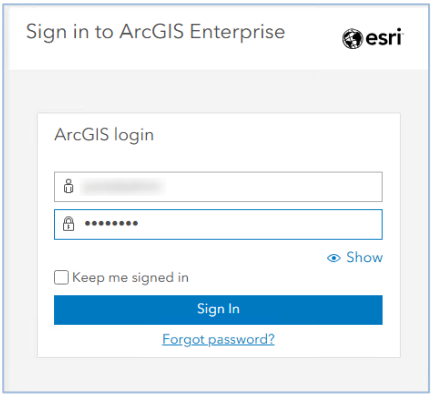
3.4. ポータル サイトへのサイン インの確認

Portal for ArcGIS のインストール、および ArcGIS Web Adaptor のインストールと構成が完了したら、以下の手順に従い、「3.2. ポータル サイトの作成」で作成した初期管理者アカウントを使用しポータル サイトへサイン インできることを確認します。

1. ArcGIS Web Adaptor の構成後に表示される URL を使用し、ブラウザーでポータル サイトを開き、右上の [Sign In] をクリックします。本ガイドでは、下記の URL になります。
https://portal.domain.com/portal/home



2. 初期管理者アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、[Sign In] をクリックします。



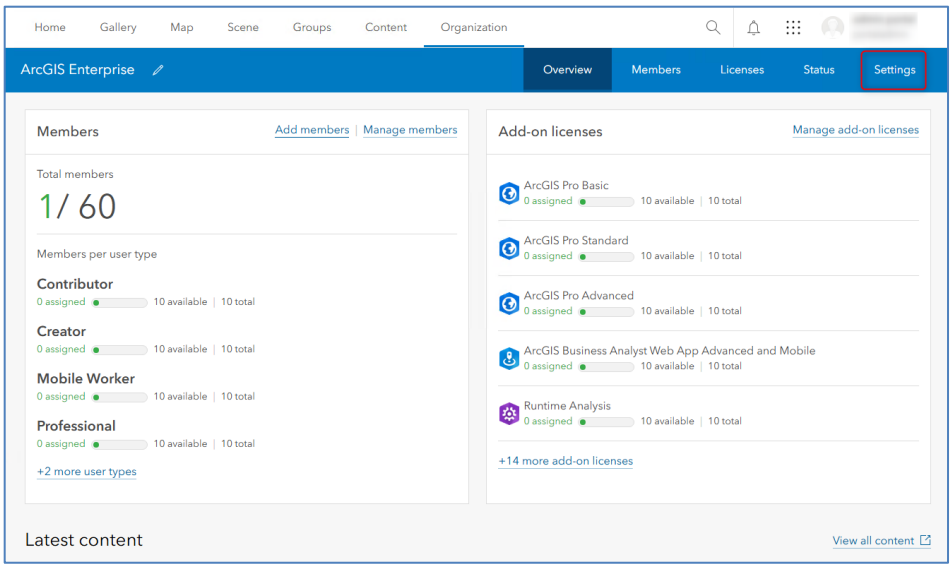
3. サイン インすると、ポータル サイト内の [Organization] ページが開きます。

以上で、ポータル サイトでのサイン インの確認は完了です。

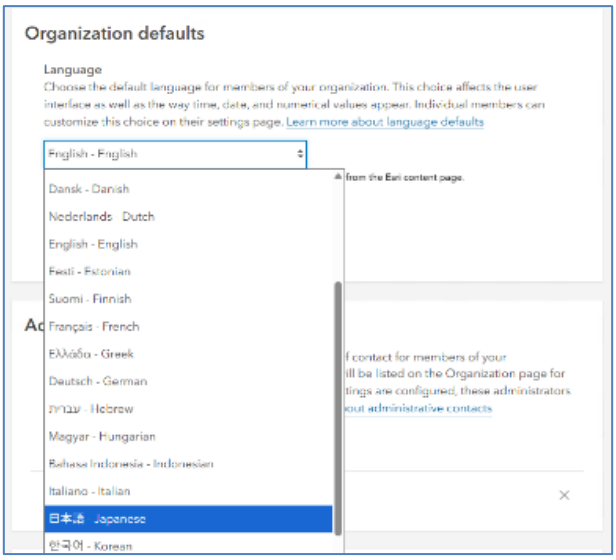
3.5. ポータル サイトのデフォルトの言語設定

ポータル サイトのデフォルトの表示言語を日本語に変更します。

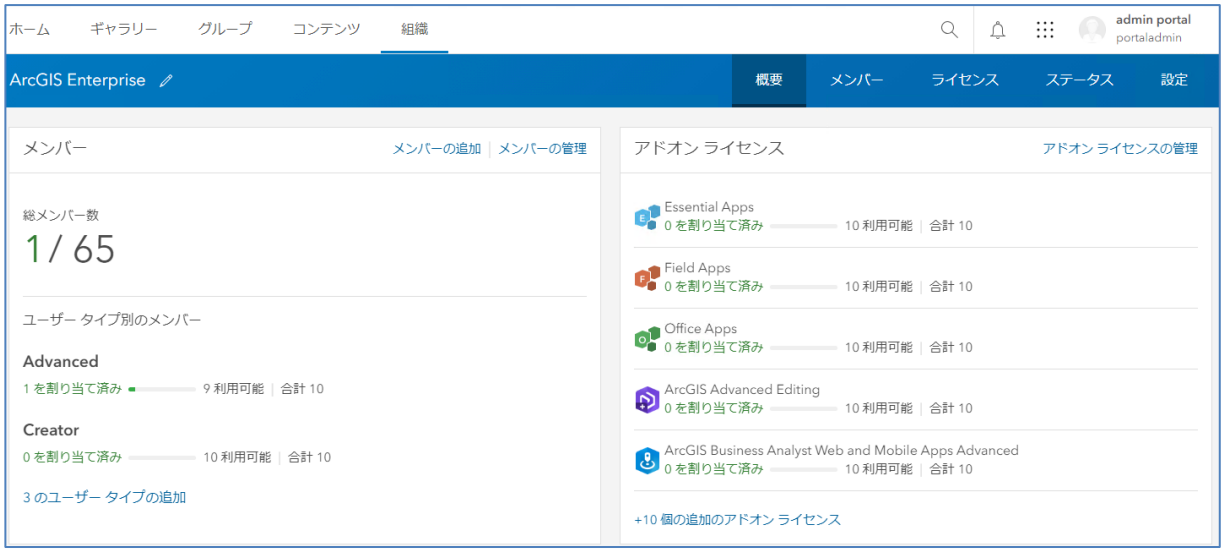
1. ポータル サイトにサイン インし、[Organization] を開き、 [Settings] をクリックします。



2. ページ左のタブ メニューから [General] をクリックし、[Language] のプルダウン メニューにて、[Japanese – 日本語] を選択します。ページ最上部、もしくは最下部の [Save] をクリックします。ポータル サイトのデフォルトの表示言語が日本語に変更されます。



- 指定ユーザーは、それぞれユーザープロファイルで、[言語] の設定を行うことができ、この言語によって、そのユーザーでログインしている際のポータル サイトの表示言語を切り替えることができます。


ホーム
ギャラリー
グループ
コンテンツ
組織
admin portal
portaladmin
ArcGIS Enterprise
概要
メンバー
ライセンス
ステータス
設定
メンバー
メンバーの追加 | メンバーの管理
総メンバー数
1 / 65
ユーザー タイプ別のメンバー
Advanced
1 を割り当て済み
9 利用可能 | 合計 10
Creator
0 を割り当て済み
10 利用可能 | 合計 10
3 のユーザー タイプの追加
アドオン ライセンス
アドオン ライセンスの管理
Essential Apps
0 を割り当て済み
10 利用可能 | 合計 10
Field Apps
0 を割り当て済み
10 利用可能 | 合計 10
Office Apps
0 を割り当て済み
10 利用可能 | 合計 10
ArcGIS Advanced Editing
0 を割り当て済み
10 利用可能 | 合計 10
ArcGIS Business Analyst Web and Mobile Apps Advanced
0 を割り当て済み
10 利用可能 | 合計 10
+10 個の追加のアドオン ライセンス

4. ArcGIS Server のインストールと初期設定

本章では、サーバー 2 に ArcGIS Server 12.0 をインストールし、構成するまでの手順を説明します。手順は以下になります。

・4.1. ArcGIS Server のインストール

・4.2. 新規 ArcGIS Server サイトの作成

・4.3. ArcGIS Web Adaptor の設定

・4.4. ArcGIS Server REST ページの確認

・4.5. 自己署名証明書の警告の非表示設定

4.1. ArcGIS Server のインストール

ArcGIS Server コンポーネントのインストールを行います。ArcGIS Server をインストールすることにより、GIS サービスの公開や管理を行うことができます。インストールした GIS サーバーには組み込みの Web サーバーが含まれています。

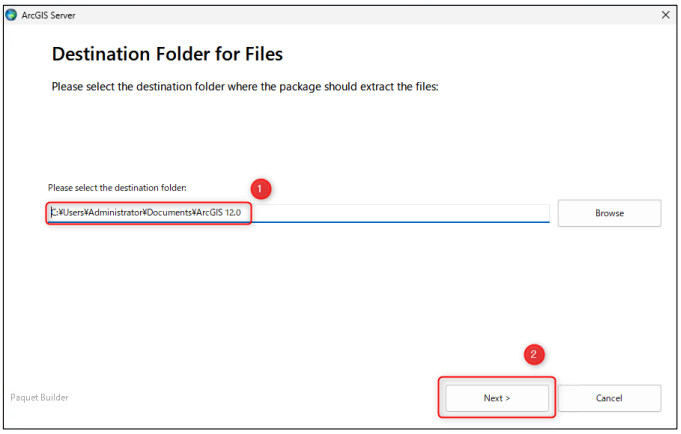
- ArcGIS Server のインストールを行うアカウントは、コンピューターの管理者権限を持つ必要があります。
  アカウントは既存のものを使っても、新規で作成しても、どちらでも構いません。

- 本インストール ガイドは ArcGIS Server のインストーラーをダウンロードしインストールする場合を前提としております。ISO ファイルをダウンロードした場合、または、製品メディアからインストールする場合は、ArcGIS Server の ISO ファイルまたは製品メディアに含まれている ArcGIS Server のインストーラーを使用してください。

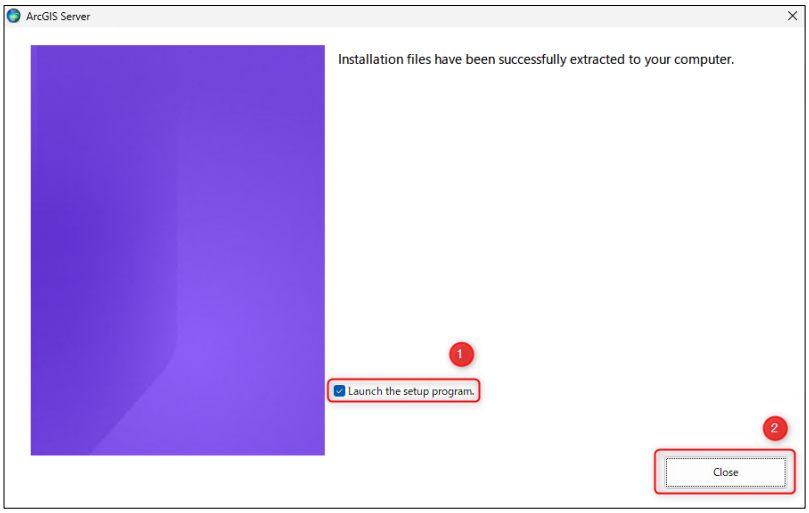
1. My Esri からダウンロードした ArcGIS Server のインストーラーをダブルクリックし、インストーラーを展開します。以下のウィンドウが表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し、[Next] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。

   ArcGIS_Server_Windows_<バージョン>_<number>.exe

   ArcGIS_Server_Windows_<バージョン>_<number>.exe.001



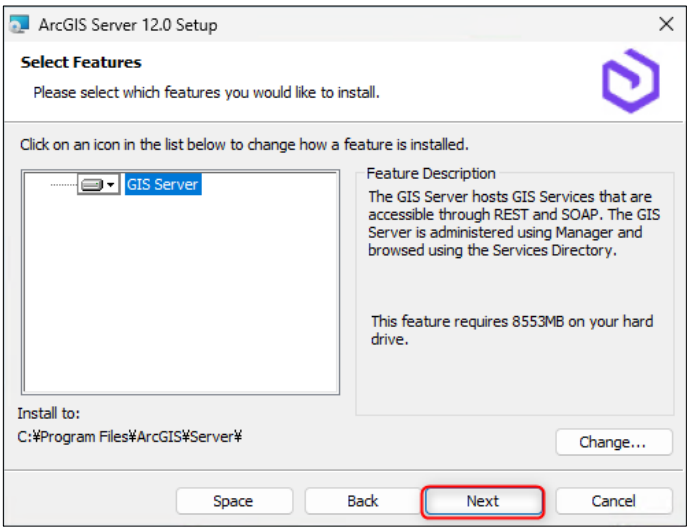
2. 展開が終わると下図が表示されます。[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックします。[Close] をクリックすると、インストーラーが起動します。



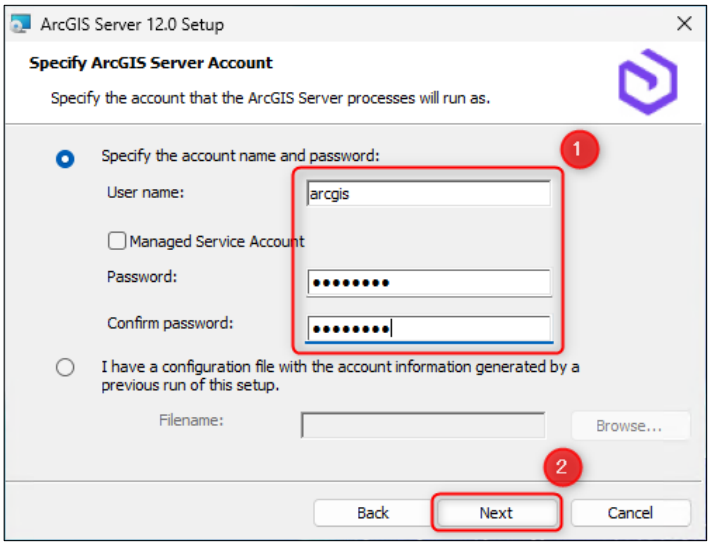
3. [Next] をクリックします。

4. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は [I accept the master agreement] を選択し、[Next] をクリックします。

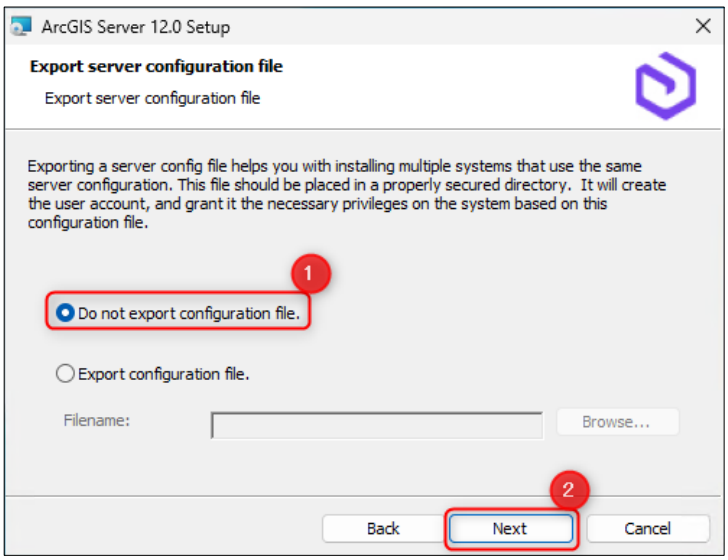
5. インストールするコンポーネントおよびインストール先を指定し、[Next] をクリックします。



6. ArcGIS Server のプロセスを実行するサービス アカウントを指定します。アカウント名とパスワードを入力したら、[Next] をクリックします。



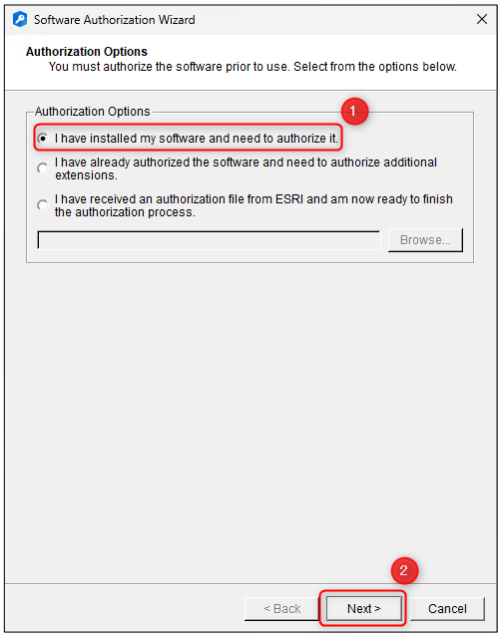
7. サーバー構成ファイルを出力するかどうかを指定します。本ガイドではデフォルトの「Do not export configuration files.」にしますが、必要に応じて適宜変更してください。[Next] をクリックします。



8. [Install] をクリックし、インストールを開始します。

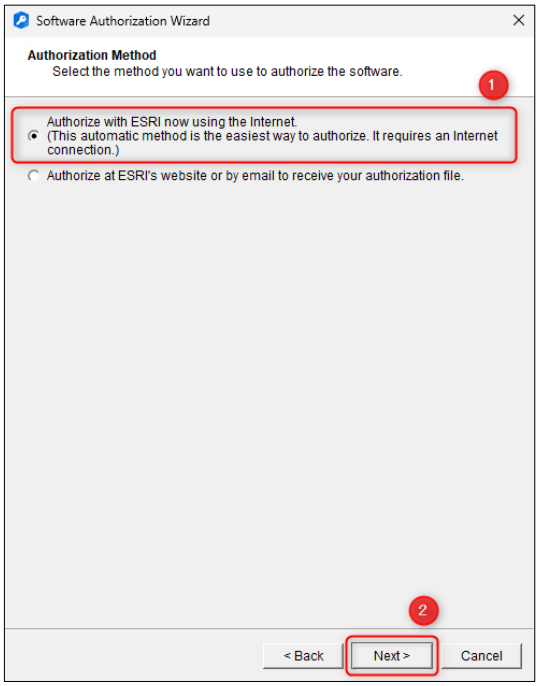
9. [Finish] をクリックしてインストールを完了します。

10. インストール終了後、ソフトウェア認証ウィザードが表示されます。[I have installed my software and need to authorize it.] を選択し [Next] をクリックします。

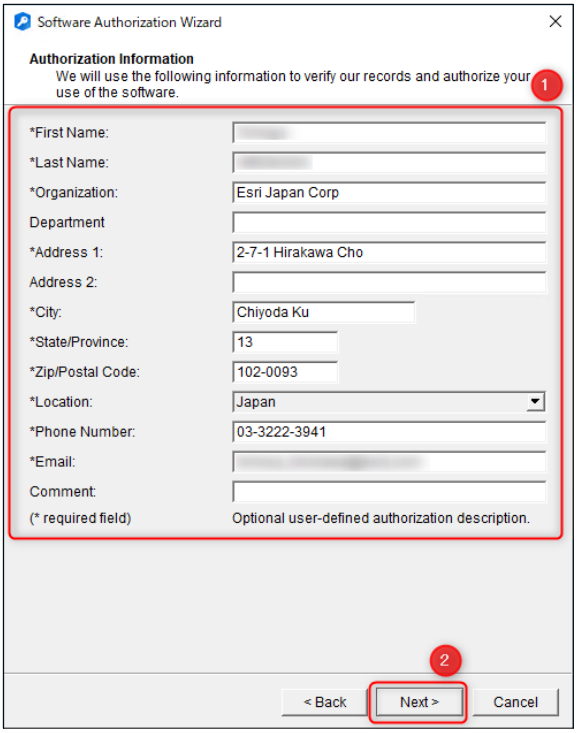


11. [Authorize with ESRI now using the Internet.] を選択し、[Next] をクリックします。

- [Esri の Web サイトで認証するか、電子メールで認証ファイルを受信。] を選択する場合は、別途「オフライン環境下での ArcGIS Enterprise の認証について」をご参照ください。

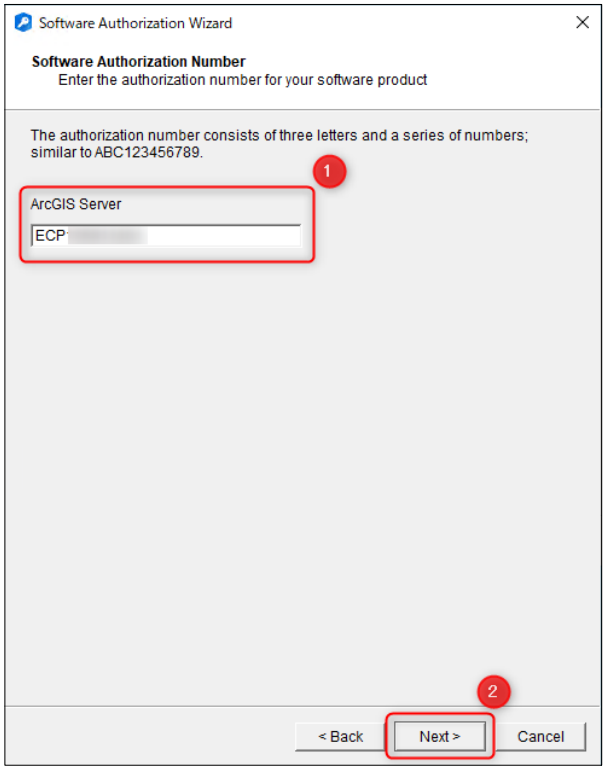


12. ユーザー情報を入力し、[Next] をクリックします。

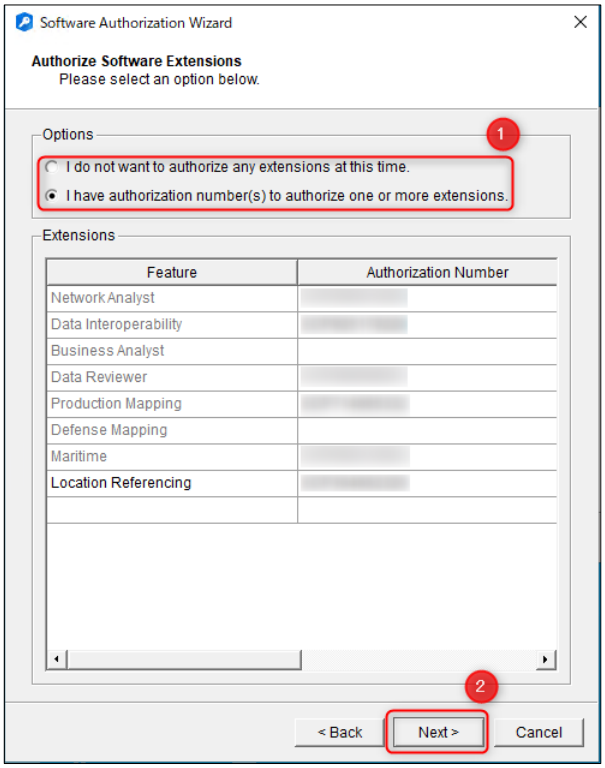


13. Esri 製品ライセンス コンファメーションに記載されている ArcGIS GIS Server の認証番号（ECP で始まる 12 桁の文字数字列）を入力し、[Next] をクリックします。

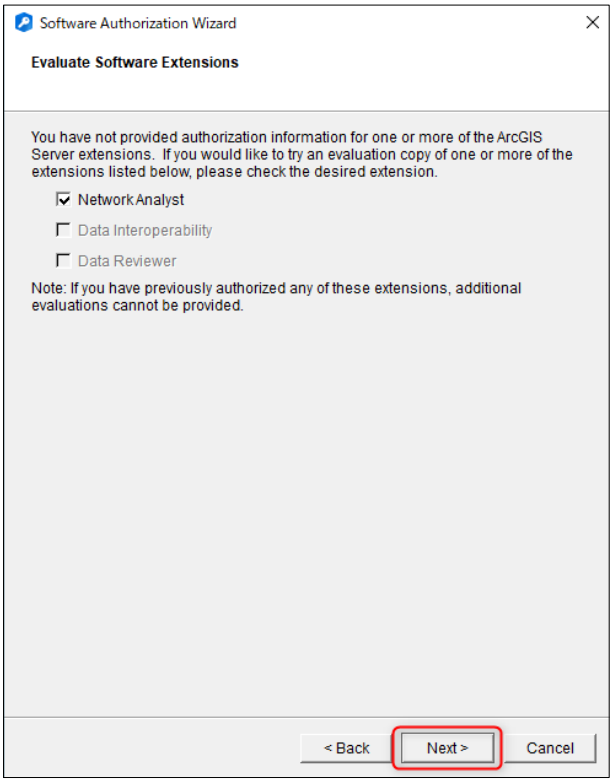
- オプショナル サーバーの ArcGIS Image Server または ArcGIS GeoEvent Server として、ArcGIS Server を使用する場合は、該当する認証番号を入力してください。



14. エクステンションをお持ちでない場合、[I do not want to authorize any at this time.] をオンにします。エクステンションをお持ちの場合は、[I have authorization number(s) to authorize one or more extensions.] をオンにし、各エクステンションの認証番号を入力します。[Next] をクリックします。



15. 各エクステンションをお持ちでない場合、エスクテンションの評価版を使用することができます。エクステンションの評価版を使用する場合は、使用したいエクステンションのチェックボックスをオンにします。[Next] をクリックします。



16. ソフトウェアの認証が終了したら、[Finish] をクリックします。

これで ArcGIS Server のインストールは完了です。

4.2. 新規 ArcGIS Server サイトの作成

1. セットアップが終了すると、ArcGIS Server Manager が起動します。[新規サイトの作成] をクリックして新規 ArcGIS Server サイトの作成を行います。

- ArcGIS Server Manager サイトにアクセスすると、Web サイトのセキュリティ証明書に問題があることを示す警告が表示されます。この警告を非表示にする方法については、本ガイドの「自己署名証明書の警告の非表示設定」をご参照ください。

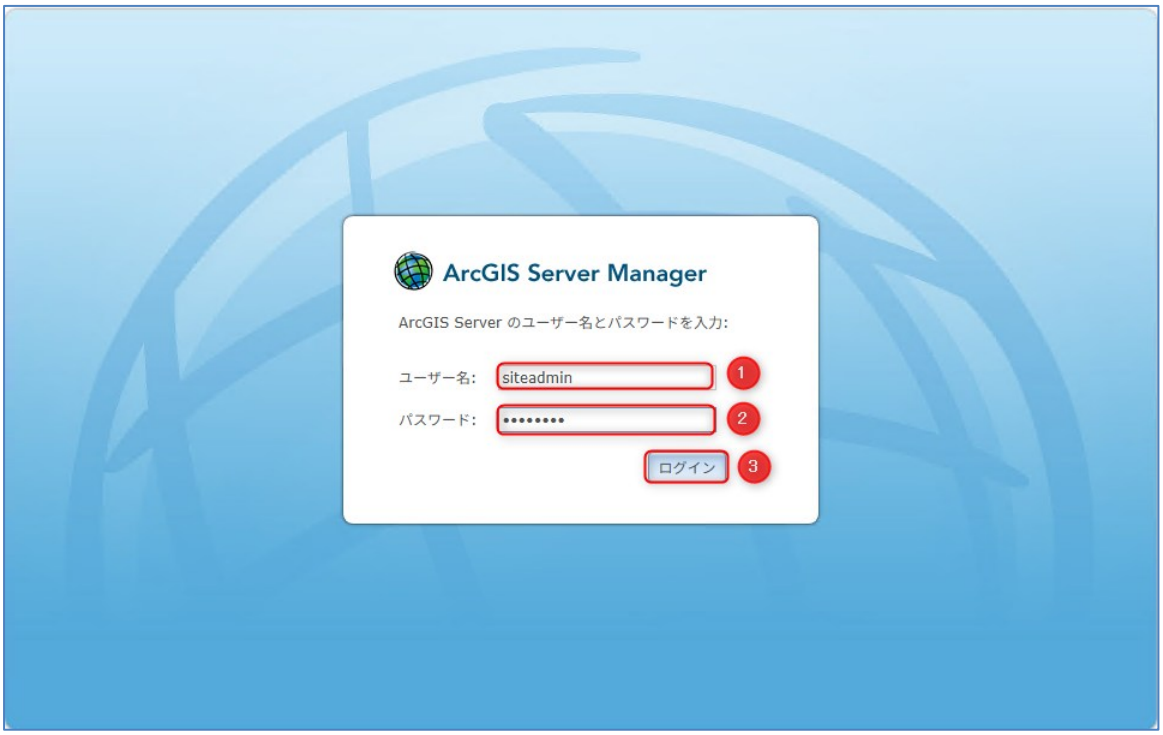
2. ArcGIS Server サイトのプライマリ サイト管理者アカウントを作成します。ユーザー名とパスワードを設定して、[次へ] をクリックします。

3. ルート サーバー ディレクトリと構成ストアの指定を行います。場所を指定したら、[次へ] をクリックします。

- ルート サーバー ディレクトリに指定する場所はサイト内のすべてのコンピューター、構成ストアに指定する場所はサイト内の各コンピューターがアクセスできる必要があります。

4. 構成サマリーが表示されたら、ユーザー名、ルート サーバー ディレクトリ、構成ストアを確認して、[完了] をクリックします。

5. ArcGIS Server サイトの作成が完了すると、ArcGIS Server Manager のログイン画面が表示されます。手順 2 で作成した管理者アカウントのユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。



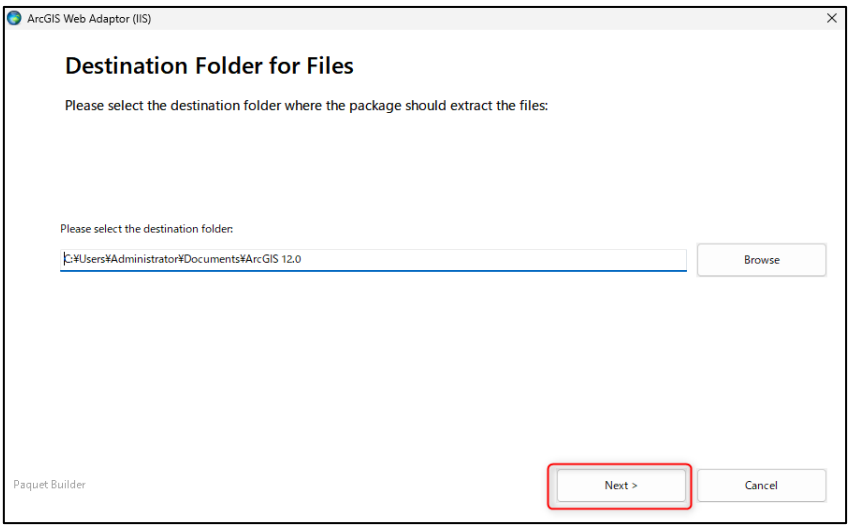
6. ログインすると、ArcGIS Server Manager の管理画面が開きます。ArcGIS Server で公開したサービスは ArcGIS Server Manager で管理することができます。

以上で、ArcGIS Server サイトの作成は終了です。

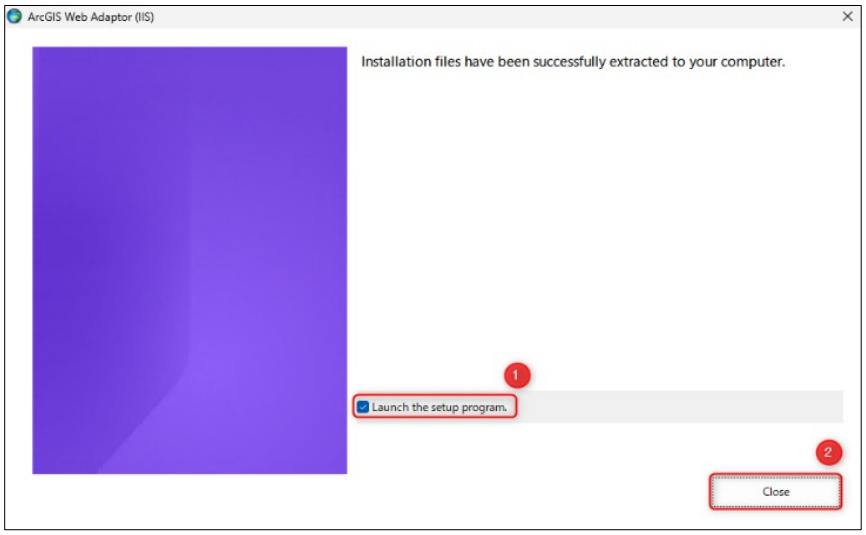
4.3. ArcGIS Web Adaptor の設定

引き続き、ArcGIS Server 用の ArcGIS Web Adaptor (以下、Web Adaptor) の構成を行います。本ガイドでは、サーバー2（server.domain.com）に Web Adaptor をインストールします。

1. My Esri からダウンロードした Web Adaptor のインストーラーをダブルクリックし、インストーラーを展開します。以下のウィンドウが表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し、[Next] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。
   ArcGIS_Web_Adaptor_for_Microsoft_IIS_<バージョン>_<number>.exe



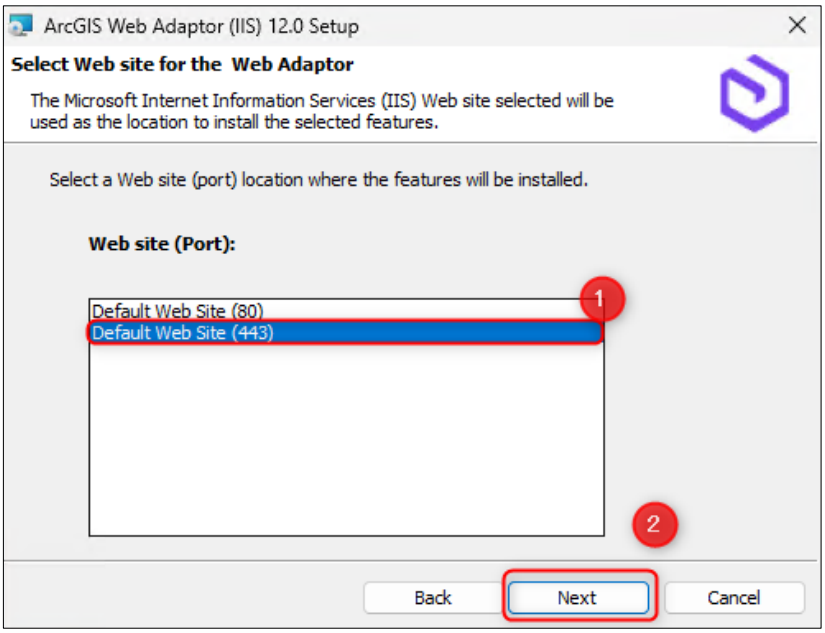
2. 展開が終わると下図が表示されます。[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックします。[Close] をクリックすると、インストーラー起動します。



3. [Next] をクリックします。

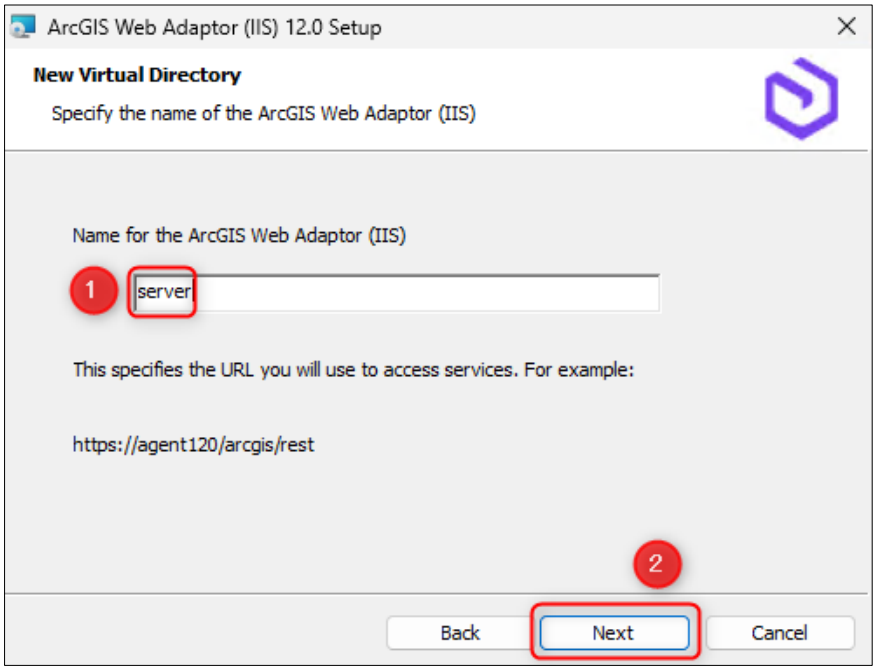
4. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は [I accept the master agreement] を選択し、[Next] をクリックします。

5. Web Adaptor の Web サイトを選択し、[Next] をクリックします。ここでは HTTPS（ポート 443）のサイトを選択します。



- Web サイトが 1 つしか存在しない場合および SSL 設定がされていない場合は、[Web Adaptor の Web サイトの選択] ダイアログは表示されません。また、Portal for ArcGIS との通信では https 通信を使用するので、あらかじめ Web サーバー上で https 通信を有効化しておく必要があります。

6. Web Adaptor の名前を入力します。デフォルトは「arcgis」です。本ガイドでは、ArcGIS Server 用の Web Adaptor の名前を「server」と設定します。[Next] をクリックします。



- 選択した Web サイトに、指定した Web Adaptor の名前と同じ仮想ディレクトリが既に存在する場合、メッセージが表示されるので [OK] をクリックし、Web Adaptor に異なる名前を入力してください。

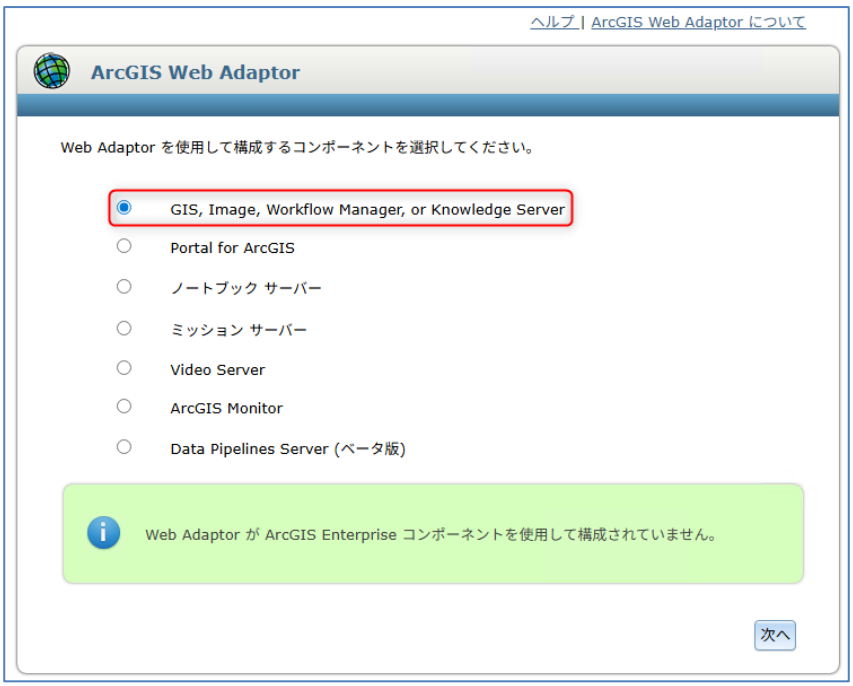
7. [Install] をクリックしてインストールを開始します。

8. [Finish] をクリックしてインストールを終了します。

9. Web ブラウザーから以下の URL にアクセスし、Web Adaptor の構成ページを開きます。
※連携する設定を行う前に、サービス URL が、Web Adaptor をホストしているマシンの内部 IP アドレスで接続できることをご確認ください。

https://<サービス URL>:<ポート番号 (443 ではない場合)>/<Web Adaptor 名>/webadaptor
本ガイドでは、サーバー2（server.domain.com）に Web Adaptor 名が「server」の Web Adaptor をインストールしたので、構成ページの URL は以下になります。
https://server.domain.com/server/webadaptor

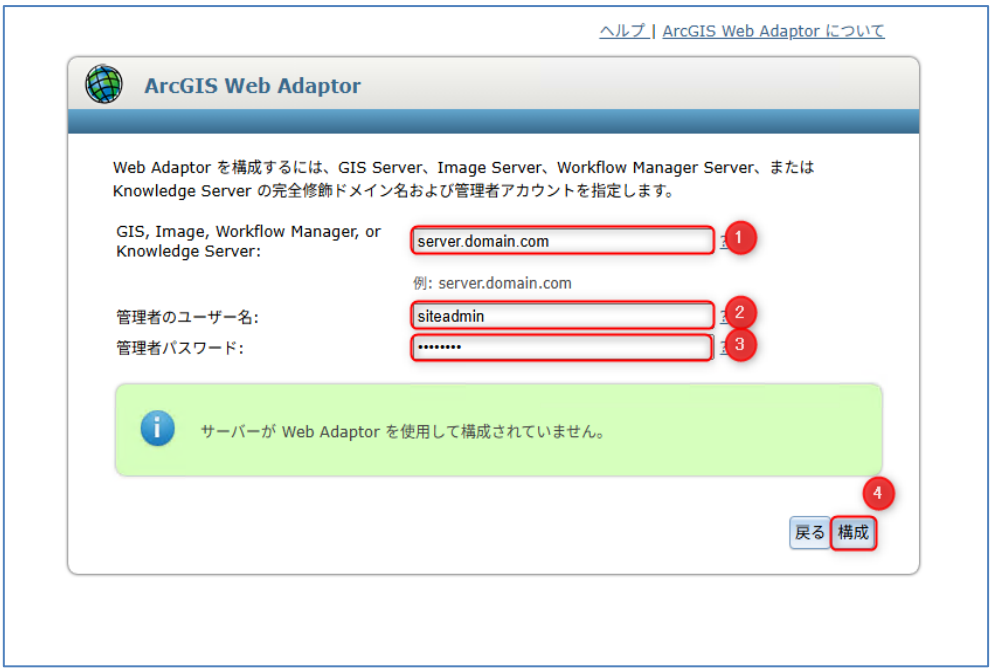
10. 「GIS, Image, Workfrow Manager or Knowledge Server」を選択し、「次へ」をクリックします。



11. GIS サーバーの URL には、ArcGIS Server サイト内の 1 台の GIS サーバーの FQDN を入力します。この FQDN で、そのサイトに参加している GIS サーバーすべてが検出され、Web Adaptor に登録されます。
    例：server.domain.com

12. 3. ArcGIS Server サイトの管理者のユーザー名とパスワードを入力します（ArcGIS Server サイトを作成したときに定義したプライマリ サイト管理者ユーザー名とパスワードを入力します）。

13. ユーザーが Web Adaptor を介してサイトを管理できるようにするかどうかを選択します。[構成] をクリックして、Web Adaptor に設定を適用します。
    ※バージョン 11.5 以降、Web Adaptor 経由での ArcGIS Server サイトへの管理アクセスがデフォルトで有効になっており、無効化にすることはできません。インターネットに公開するサイトの場合は、WAF（Web Application Firewall）対応のロードバランサーを利用して ArcGIS Enterprise 管理アクセスを制限することを推奨します。詳細は下記の ArcGIS ブログをご参照ください。
    [WAF(Web Application Firewall) 対応のロードバランサーを利用して ArcGIS Enterprise 管理アクセスを制限する]



14. 構成が完了すると、Web Adaptor で認識されている GIS サーバーのリストが表示されます。以上で Web Adaptor の構成は完了です。

Portal for ArcGIS の場合と同様、組織内 DNS で Web サーバーに対して別の FQDN でアクセスする場合や、クラウド環境に ArcGIS Enterprise を構築する場合は、上記の手順に加えて、「8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法」に記載の手順を行う必要があります。これらのケースに該当する場合は、当該手順を行います。これらのケースに該当しない場合は以下の手順にお進みください。

4.4. ArcGIS Server REST ページの確認

ArcGIS Web Adaptor を介して、ArcGIS Server の REST エンドポイントが表示されることを確認します。

1. ArcGIS Web Adaptor の構成後に表示される URL を使用して、ブラウザーでアクセスします。本ガイドでは、下記の URL になります。

   https://server.domain.com/server/rest/

   以下のページが表示されれば ArcGIS Server の REST エンドポイントは適切に表示されています。

以上で、ArcGIS Server の REST エンドポイントの確認は完了です。

4.5. 自己署名証明書の警告の非表示設定

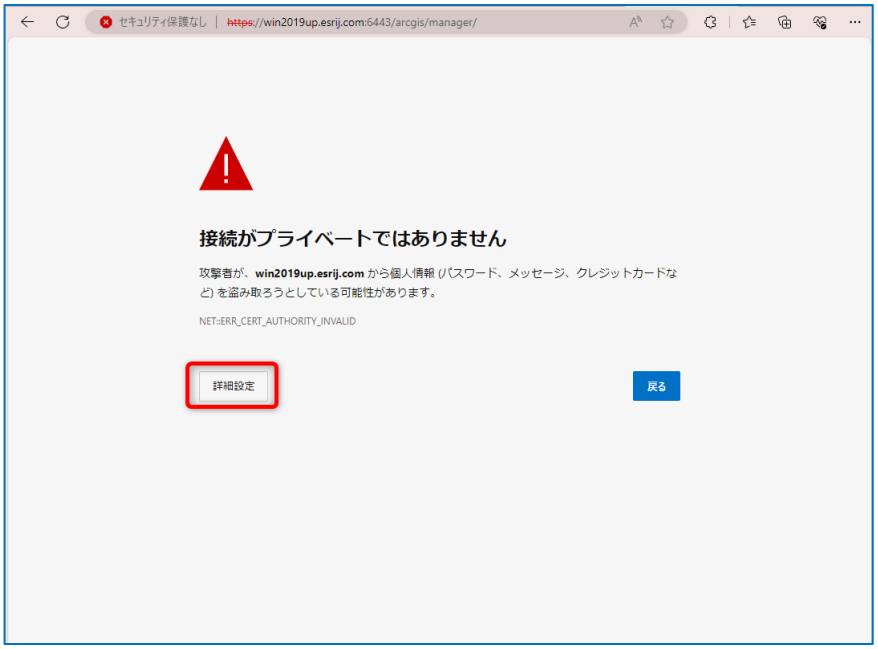
IIS で使用しているサーバー証明書が自己署名証明書である場合、ArcGIS Web Adaptor の構成ページにアクセスする際、Web サイトのセキュリティ証明書に問題があることを示す警告が表示されます。また、ArcGIS Server に管理用ポートでアクセスする場合も、インストール時に自動的に作成された自己署名証明書が使用されるので、同様の警告が表示されます（他のコンポーネントも同様）。以下に、各ブラウザー別に、自己署名証明書の警告を非表示にする方法について説明します。

- 管理用ポートを使用して Portal for ArcGIS および ArcGIS Server にアクセスする際に使用する証明書をドメイン証明書に変更する方法は以下のリンクをご参照ください。

  「ドメイン証明書の作成」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/administer/windows/create-a-domain-certificate.htm

4.5.1. Microsoft Edge

2. ブラウザー上で URL（*https://<ホスト名>:6443/arcgis/manager/*）にアクセスし ArcGIS Server Manager を開きます。警告メッセージの下にある [詳細設定] をクリックします。



1. 「＜ホスト名＞ に進む(安全ではありません)」と記載されたリンクが表示されるので、このリンクをクリックします。

- これらの手順をすべて実行すると、警告ページがサーバー サイトに表示されなくなりますが、赤色のテキストと [安全ではありません] メッセージは URL バーに表示されたままになります。

4.5.2. Google Chrome

2. ブラウザー上で URL（*https://<ホスト名>:6443/arcgis/manager/*）にアクセスし、ArcGIS Server Manager を開きます。

1. 警告メッセージの下にある [詳細設定] をクリックします。

2. 「<ホスト名>にアクセスする（安全ではありません）」と記載されたリンクが表示されるので、このリンクをクリックします。

- これらの手順をすべて実行すると、警告ページがサーバー サイトに表示されなくなりますが、赤色の [保護されていない通信] メッセージは アドレス バーに表示されたままになります。

4.5.3. Firefox

3. ブラウザー上で URL（https://<ホスト名>:6443/arcgis/manager/）にアクセスし ArcGIS Server Manager を開きます。ここで [このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）をクリックします。

1. 警告メッセージの下にある [詳細設定] をクリックします。

2. [危険性を承知で続行] をクリックします。

- これらの手順をすべて実行すると、警告ページがサーバー サイトに表示されなくなり、ArcGIS Server サイトがセキュリティ設定の例外サイトに追加されますが、Google Chrome の場合と同様、Firefox においてもアドレス バーの警告は表示されたままになります。

5. ArcGIS Data Store のインストールと初期設定

本章では、サーバー 3 に ArcGIS Data Store 12.0 をインストールし、構成するまでの手順を説明します手順は以下になります。

・5.1. ArcGIS Data Store のインストール

・5.2. 新規 ArcGIS Data Store の構成

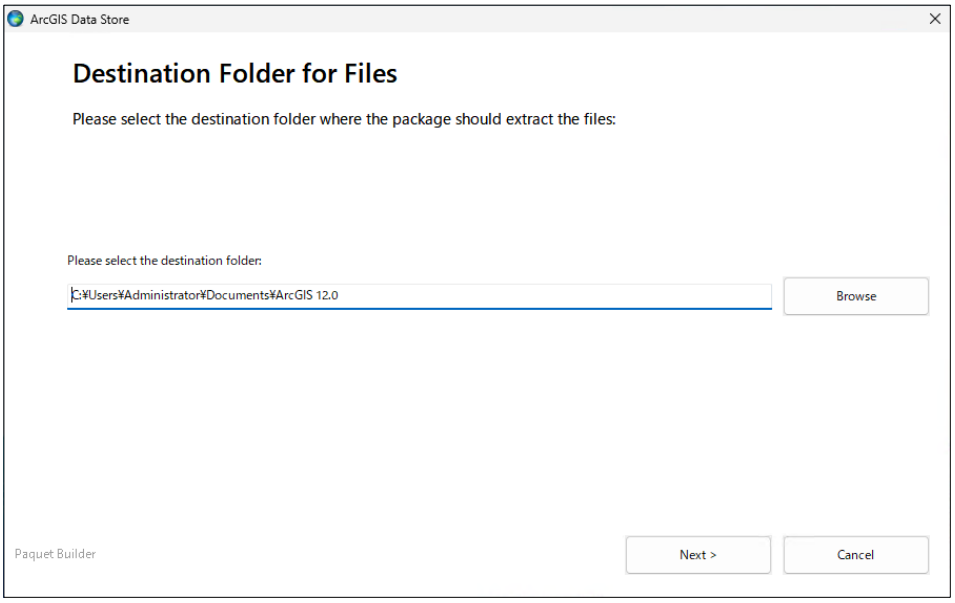
5.1. ArcGIS Data Store のインストール

1. My Esri からダウンロードした ArcGIS Data Store のインストーラーをダブル クリックし、インストーラーを展開します。

   ArcGIS_DataStore_Windows_<バージョン>_<number>.exe

   ArcGIS_DataStore_Windows_<バージョン>_<number>.exe.001

2. 下図が表示されますので、インストーラーを展開するフォルダーを指定し [Next] をクリックします。ここでは、デフォルトの設定のまま進みます。

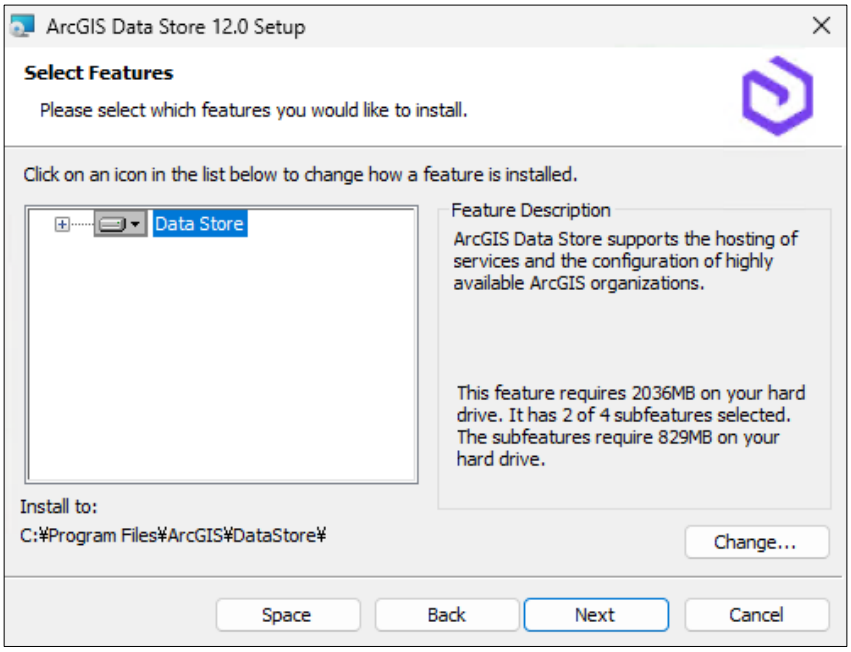


3. 展開が終わると下図が表示されます。[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックします。[Close] をクリックすると、インストーラーが起動します。

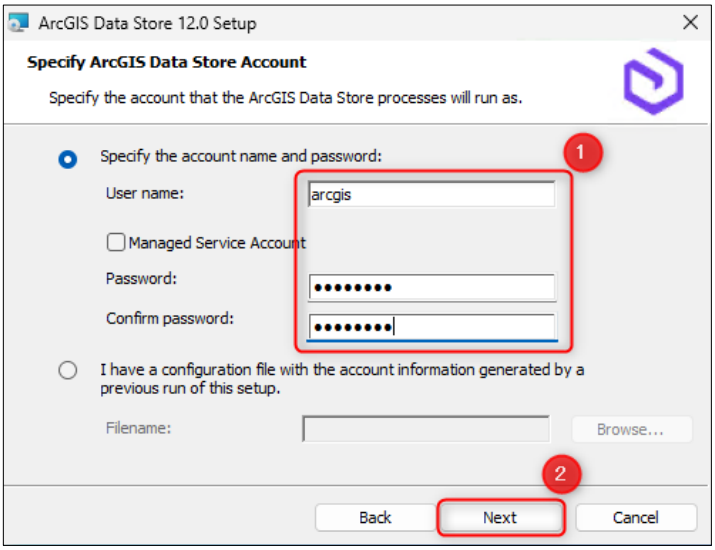
4. [Next] をクリックします。

5. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は [I accept the license agreement] を選択し、[Next] をクリックします。

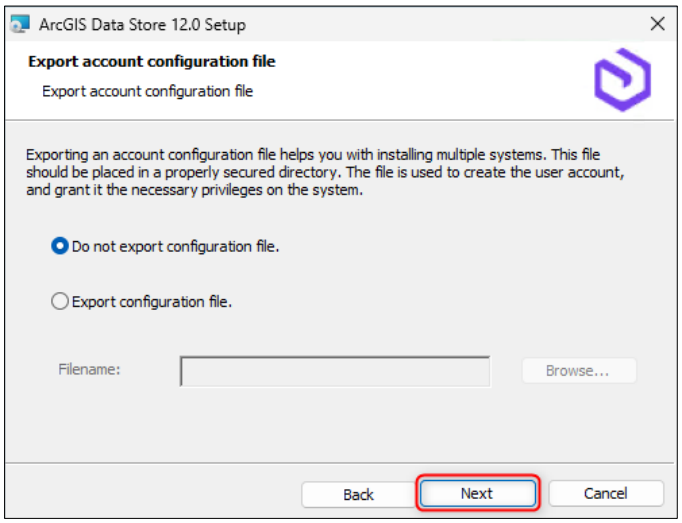
6. インストール先を指定し、[Next] をクリックします。



7. ArcGIS Data Store のプロセスを実行するサービス アカウントを指定します。アカウント名とパスワードを入力したら、[Next] をクリックします。



8. サーバー構成ファイルを出力するかを指定します。本ガイドではデフォルトの [Do not export configuration file.] を選択しますが、必要に応じて設定を変更してください。
設定後、[Next] をクリックします。



9. [Install] をクリックしてインストールを開始します。

10. [Finish] をクリックしてインストールを終了します。

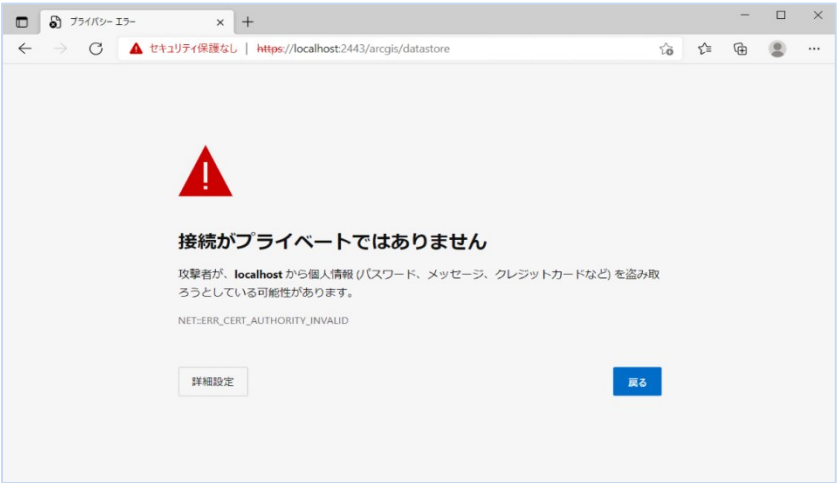
ArcGIS Data Store のインストールは以上で終了です。

5.2. ArcGIS Data Store の構成

ArcGIS Data Store をインストール後、ArcGIS Server サイトと連携するように設定します。

1. インストール完了後、自動的に下図のような Web ページが開きます。Data Store のデフォルトのセキュリティ証明書を使用しているため、[接続がプライベートではありません] と警告が表示されますが、Data Store の動作には問題ありません※。ここでは、[詳細設定] を表示して [localhost に進む (安全ではありません)]をクリックし、[データ ストア構成ウィザード] に進みます。

- Data Store の通常の運用として、ユーザーが直接 Data Store にアクセスすることは想定されておりません。ArcGIS Server との通信のみが発生します。



2. [データ ストア構成ウィザード] で、Data Store が連携する ArcGIS Server サイトの管理用接続情報としてマシン名を入力します。
   本ガイドでは、サーバー 2（server.domain.com）に ArcGIS Server をインストールしたので、管理用接続情報は以下になります。
   server.domain.com
   ユーザー名とパスワードは、ArcGIS Server プライマリ管理者のアカウントを入力します。
   入力後、[次へ] をクリックします。

- ArcGIS Data Store をホストしているサーバー上で上記の ArcGIS Server の管理用 URL にアクセスできるか、ご確認ください。

3. コンテンツ ディレクトリを作成するディレクトリを選択し、 [次へ] をクリックします。

4. Data Store のタイプを選択します。

ArcGIS Data Store は下記のタイプを選択することができます。

1. リレーショナル
2. 時空間（Spatiotemporal）
3. グラフ
4. オブジェクト

本構成では、1 の [リレーショナル] と 4 の [オブジェクト] を選択します。

その他のタイプについては下記をご参照ください。

https://enterprise.arcgis.com/ja/data-store/latest/install/windows/what-is-arcgis-data-store.htm

5. 構成サマリーを確認し、[完了] をクリックします。

6. ArcGIS Server Manager で [サイト] – [データ ストア] – [すべてを整合チェック] の順にクリックし、Data Store が正しく構成されていることと、整合チェックで問題がないことを確認します。

ArcGIS Data Store を構成する作業は以上で終了です。次章「6. Portal for ArcGIS と ArcGIS Server の連携設定」にお進みください。

6. Portal for ArcGIS と ArcGIS Server の連携設定

本章では、Portal for ArcGIS と ArcGIS Server を連携させるための設定の手順について説明します。
手順は以下になります。

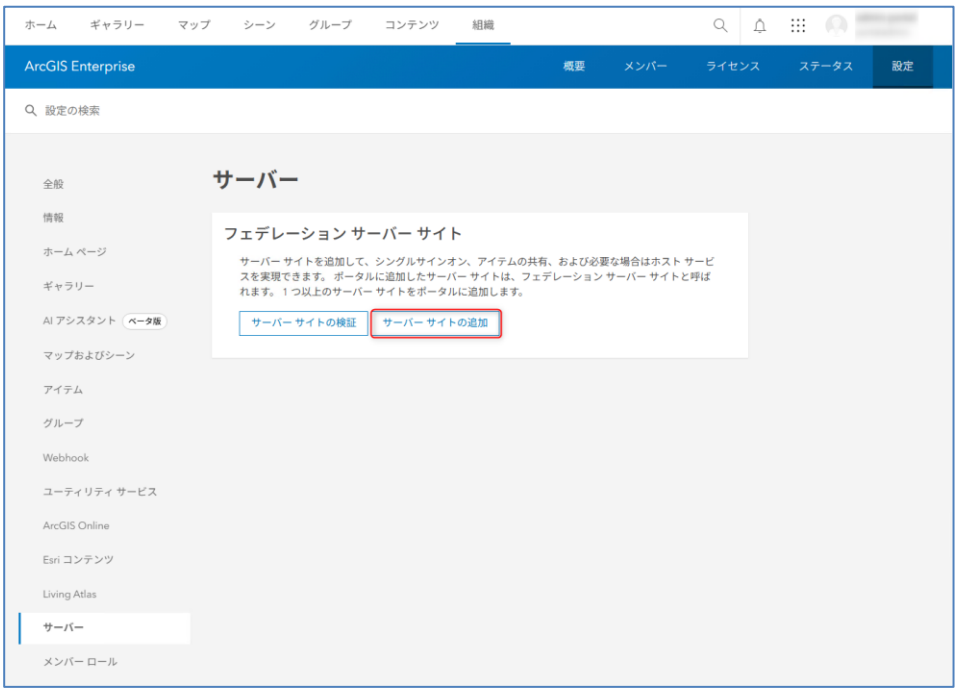
・ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして Portal for ArcGIS に登録
・フェデレーション サーバーとして登録した ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録

6.1. ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録

まず、ArcGIS Server をポータルのフェデレーション サーバーとして登録します。

- ArcGIS Server や Portal for ArcGIS のサービス URL をリバース プロキシ サーバーの URL に設定する場合は、Portal for ArcGIS に ArcGIS Server をフェデレートする前に、サービス URL をリバース プロキシ サーバーの URL に変更する設定を行ってください。各サービス URL をリバース プロキシ サーバーの URL に変更する手順については、本ガイドの「ArcGIS Server の設定手順」、「Portal for ArcGIS の設定手順」をご参照ください。

1. 管理者 (ポータル インストール時に作成した初期管理者アカウントなどを使用) として、ポータル サイトにサイン インし、[組織] → [設定] → [サーバー] → [サーバーの追加] の順に選択し、次の情報を入力します。



- [サービス URL]：

  外部ユーザーが ArcGIS Server サイトにアクセスするときに使用する URL。

  本ガイドでは、ArcGIS Server および ArcGIS Server 用 Web Adaptor（Web Adaptor 名：server）はサーバー 2（server.domain.com）にインストールされているので、URL は以下になります。事前準備の章で設定した環境情報に合わせて設定する URL を変更して下さい。

  https://server.domain.com/server

  ArcGIS Server で WebContextURL を設定している場合、サービス URL には、WebContextURL で設定している URL を入力します。

- [管理 URL]：

  管理者操作を実行する ArcGIS Server サイトへのアクセスに使用する URL。

  本ガイドでは、URL は管理用ポートを使用するので、以下になります。

  https://server.domain.com:6443/arcgis

- サービス URL には、必ずサーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用します。また、すべての通信にHTTPS/SSLを使用している場合は、http の代わりに https を使用します。

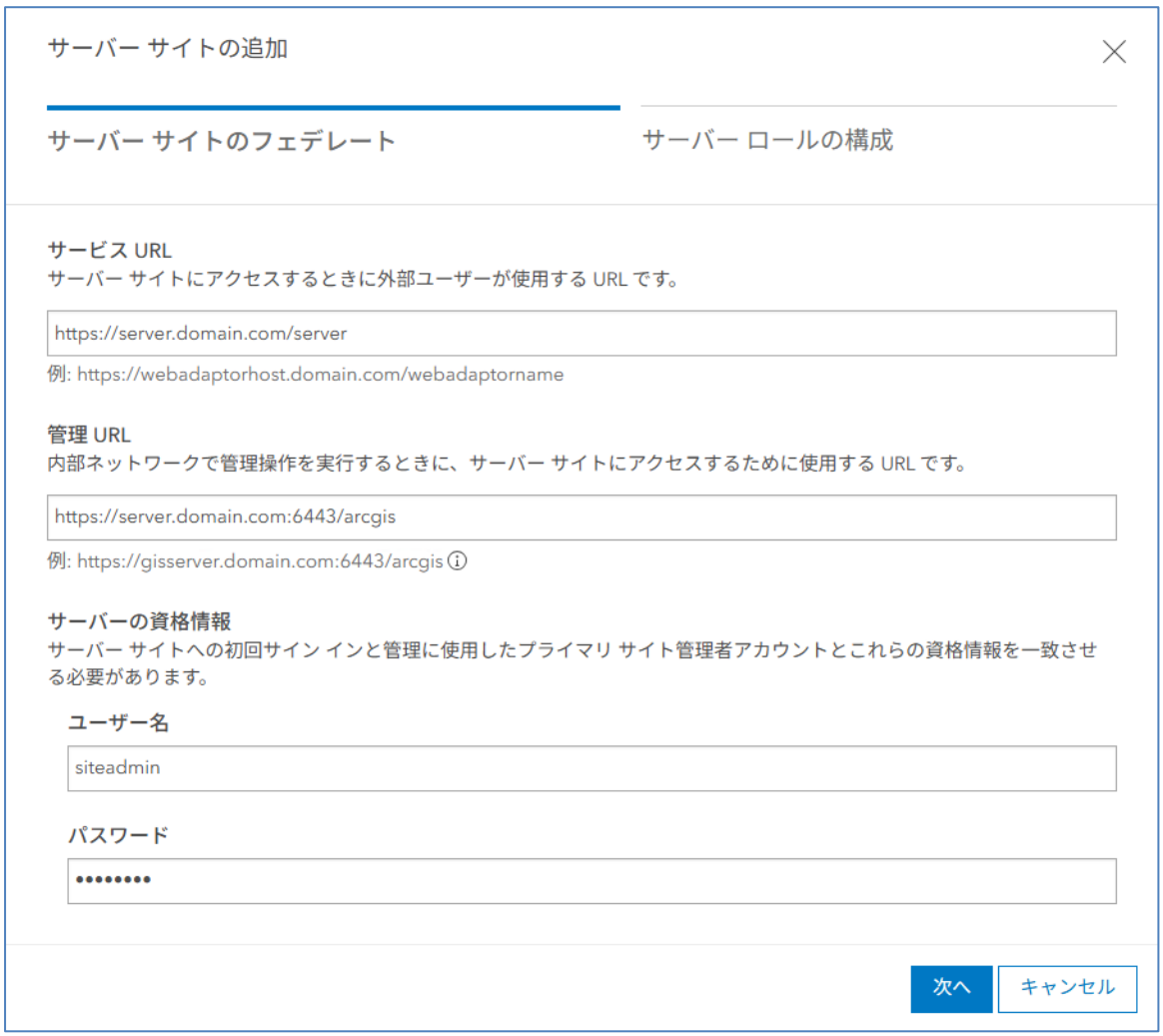
- ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録する前に、Portal for ArcGIS をホストしているサーバー上で上記の ArcGIS Server の管理用 URL にアクセスできるかご確認ください。

- [ユーザー名]：

  ArcGIS Server Manager にログインする際に使用する ArcGIS Server のプライマリ サイト管理者名。

- [パスワード]：

  ArcGIS Server のプライマリ サイト管理者アカウントのパスワード。



2. [追加] をクリックします。フェデレーション サーバーに ArcGIS Server が追加されます

- ArcGIS Server の追加に関するエラーが表示される場合は、以下のヘルプをご参照ください。

  「よくある質問と解決策」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/common-problems-and-solutions.htm

以上で、ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録するための作業は完了です。手順「6.2. ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録」にお進みください。

6.2. ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録

続いて、フェデレーションサーバーとして登録した ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録します。

1. ArcGIS Server をフェデレーション サーバーとして登録した画面にて、サーバー ロールの構成を設定できます 。

2. [ホスティング サーバー] にチェックを入れて [サーバー ロールの保存] をクリックし、終了します。

以上で、ArcGIS Server をホスティング サーバーとして登録するための作業は完了です。

ArcGIS Enterprise の基本構成をセットアップする作業は以上です。次の章では、ポータル サイトの管理設定について説明いたします。

- 設定の詳細については以下のヘルプをご参照ください。

  「ArcGIS Server サイトをポータルとフェデレート」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/federate-an-arcgis-server-site-with-your-portal.htm

  「ホスティング サーバーの構成」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest//windows/configure-hosting-server-for-portal.htm

7. 追加の管理設定

7.1. ユーザーの追加と管理

本節では、ポータル サイトのユーザーやコンテンツの管理の方法について説明します。

7.1.1. ユーザーおよびコンテンツの管理

Portal for ArcGIS では、以下の 3 つの要素によりポータル サイトのユーザー権限やコンテンツの共有方法を管理することができます。

- ユーザー タイプ
- ロール
- グループ

> ● 詳細については、以下のヘルプの各項目をご参照ください。
>
> 「ユーザー タイプ、ロール、権限」
> https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/roles.htm

■ ユーザー タイプ

Portal for ArcGIS のユーザーの種類には、主に以下のような汎用ユーザー タイプがあります。

・Viewer
・Contributor
・Mobile Worker
・Creator
・Professional
・Professional Plus

詳細は下記をご参照ください。

https://www.esrij.com/products/user-types/

	Viewer	Contributor	Mobile Worker	Creator	Professional	Professional Plus
機能						
組織内に共有されたマップやアプリの参照	○	○	○	○	○	○
データ編集		○	○	○	○	○
フィールド アプリを使用したデータ収集や編集			○	○	○	○
マップやアプリの作成				○	○	○
フィーチャ解析の実行				○	○	○
ラスター解析の実行					○	○
組織サイトの管理				○	○	○
ArcGIS Pro の使用				○ (Basic)	○ (Standard)	○ (Advanced + エクステンション)

■ ロール

指定ユーザーには、それぞれ異なるユーザー権限を持つ、以下のようなロールのうちのいずれかを割り当てることができます。

・管理者

・公開者

・ユーザー

・データ編集者

・閲覧者

また、付与する権限を独自に組み合わせたカスタム ロールを作成することもできます。

■ グループ

ポータル サイトにおける各アイテムの公開 (共有) 範囲は、以下の 3 種類です。

・一般公開

・組織内での公開 (組織の全指定ユーザーに公開)

・1 つまたは複数のグループへの公開

グループを作成し特定のユーザーをグループに追加することで、アイテムを組織内の特定の部署に所属するユーザー間でのみ共有することができます。グループには、ユーザーの他にアイテムを登録することができます。特定のプロジェクトに関連するマップやアプリケーションなどのアイテムをグループに登録することで、コンテンツを分野および対象地域別に整理することができます。

7.1.2. ユーザーの追加

Portal for ArcGIS 組み込みのアイデンティティ ストアにユーザー アカウントを作成するか、既存のエンタープライズ アカウントを登録することでユーザーを追加することができます。以下、各ユーザーの管理について説明します。

- ポータルへのアクセスの管理についての詳細は、以下のヘルプをご参照ください。
  「ポータルへのアクセスの管理」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/managing-access-to-your-portal.htm

- 新規追加したユーザーにデフォルトで適用されるユーザー タイプとロールを設定することが出来ます。デフォルトで適用されるユーザー タイプとロールの設定方法については、以下のヘルプをご参照ください。
  「新しいメンバーのデフォルトの構成」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/configure-new-member-defaults.htm

◆ Portal for ArcGIS のユーザー アカウントを作成する場合

作成したユーザー情報やグループは、ポータルの組み込みアイデンティティ ストアで管理されます。

- ユーザー アカウントの各種作成方法については、以下のヘルプ ページの各セクション内にある「組み込みポータルアカウント」をご参照ください。
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/add-members-to-your-portal.htm

◆ 組織固有のアカウントを登録する場合

ユーザー情報やグループは、既存の組織固有のアイデンティティ ストアで管理されます。

- エンタープライズ アカウントを登録する前に以下のヘルプを参照し、設定を行います。
  「組織固有のログインの設定」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/about-configuring-portal-authentication.htm#ESRI_SECTION1_66C3475137F544719F1CA3129B62D939

- エンタープライズ アカウントの各種登録方法については、以下のヘルプ ページの各セクション内にある「組織固有のアカウント」の箇所をご参照ください。
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/add-members-to-your-portal.htm

7.1.3. Portal for ArcGIS の使用状況の管理

ポータル サイトには、アイテム、ユーザー、グループ別の使用状況に関する統計情報をレポートする Activity Dashboard が組み込みのアプリケーションとして含まれています。管理者はこの情報を使用して、ポータル サイトの使用状況を監視することができます。

- [Activity Dashboard] についての詳細は、以下のヘルプをご参照ください。

  「使用量レポート」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/about-usage-reports.htm

7.2. ポータル Web サイトのカスタマイズ

組織でのポータル サイトの利用環境などに合わせ、ポータル サイトをカスタマイズすることができます。カスタマイズを行う場合は、ポータル サイトに管理者としてサイン インし、[組織] → [設定] ページに移動します。

本節では、[設定] ページで設定可能な項目の概要について説明します。

- 各項目の詳細や設定方法については、以下のヘルプの該当項目をご参照ください。

  「組織サイトの構成の基本」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/about-configuring-the-portal-website.htm

■ **[全般]**

ポータル サイトでの使用言語やトップページに表示するロゴ、説明文、リンク先などを設定することができます。

■ **[ホーム ページ]**

トップ ページの外観や表示するコンテンツの一覧についての設定を行うことができます。

■ **[ギャラリー]**

[ギャラリー] ページに表示するコンテンツをグループ単位で選択することができます。

■ **[マップおよびシーン]**

マップ ビューアーやシーン ビューアーで使用するデフォルトのベースマップ、表示範囲、単位などについて設定することができます。デフォルトでは、「ベースマップ ギャラリー」および「デフォルト ベー

スマップ」に Esri が提供する ArcGIS Online のベースマップおよびベースマップ ギャラリーを使用するように設定されています (インターネットに接続できない場合は、ArcGIS Server のサービスを設定してください)。

■ **[アイテム]**

[アイテム詳細] ページでコメント追加機能やメタデータの編集を有効または無効にすることができます。

■ **[グループ]**

ユーザーに特に見てほしいコンテンツを含むグループを「注目のグループ」として設定したり、テンプレートを含むグループをテンプレート ギャラリーで使用するように設定したりすることができます。

■ **[Webhook]**

Webhook を構成することで、特定のイベントが発生した際に通知を受けることができます。

■ **[ユーティリティ サービス]**

マップ上で使用する各種サービス (印刷、ジオコーディング、ジオメトリ演算、ルート検索など) を設定することができます。デフォルトでは、Esri が提供する ArcGIS Online の各種サービスを使用するように設定されています (インターネットに接続できない場合は、ArcGIS Server のサービスを設定してください)。

■ **[ArcGIS Online]**

ArcGIS Online アカウントを所有している場合は、ポータル サイトで ArcGIS Online のユーティリティ サービスを使用するようにポータルを構成することができます。ArcGIS Online ユーティリティ サービスに対応するアイテムが [マイ コンテンツ] ページに作成され、組織内のすべてのユーザーに共有されます。ポータルでこれらのサービスを使用すると、指定した ArcGIS Online アカウントからクレジットが消費されますのでご注意ください。

■ **[サーバー]**

Portal for ArcGIS と ArcGIS Server を連携するための設定を行うことができます。詳細は、本ガイドの「6. Portal for ArcGIS と ArcGIS Server の連携設定」をご参照ください。

■ **[メンバー ロール]**

ユーザーに付与するロール (デフォルトでは「データ編集者」、「ユーザー」、「公開者」、「管理者」、「閲覧者」の 5 種類) をカスタマイズして独自のロールを作成することができます。ロールについては、本ガイ

ドの「7.1. ユーザーの追加と管理」をご参照ください。

■ **[新しいメンバーのデフォルト設定]**

組織の設定で新しいメンバーを追加する際、デフォルトで設定されるユーザー タイプ、メンバー ロール、アドオン ライセンス、およびグループ メンバーシップなどを指定することができます。

■ **[コラボレーション]**

ArcGIS Enterprise または ArcGIS Online の組織間で、GIS コンテンツを共有することができます。

■ **[セキュリティ]**

ポータル サイトへのアクセスなどに関するセキュリティを高めるための設定をすることができます。

7.3. 3D シンボルのインストール

3D のシンボル ギャラリーに植生などの追加の 3D シンボル セット（Web スタイル）を利用できるようにするインストーラーを提供しています。

1. My Esri からダウンロードした Web スタイルのインストーラーを実行し、起動したセットアップ ウィザードに従ってインストールを実行すると追加されます。
2. Portal_for_ArcGIS_Web_Styles_Windows_<バージョン>_<number>.exe

   インストールが完了すると、Scene Viewer で利用できるようになります。

本ガイドでは、ArcGIS Enterprise の基本構成のセットアップ方法やポータル サイトの管理設定について説明しましたが、本ガイド外の詳細な設定方法や使用方法については Web ヘルプをご参照ください。

7.4. ヘルプの日本語化

Portal for ArcGIS、ArcGIS Server、ArcGIS Data Store をインストールすると、英語のヘルプが同時にインストールされます。Portal for ArcGIS、ArcGIS Server および ArcGIS Data Store のヘルプを日本語化する場合は、以下の作業を行ってください。

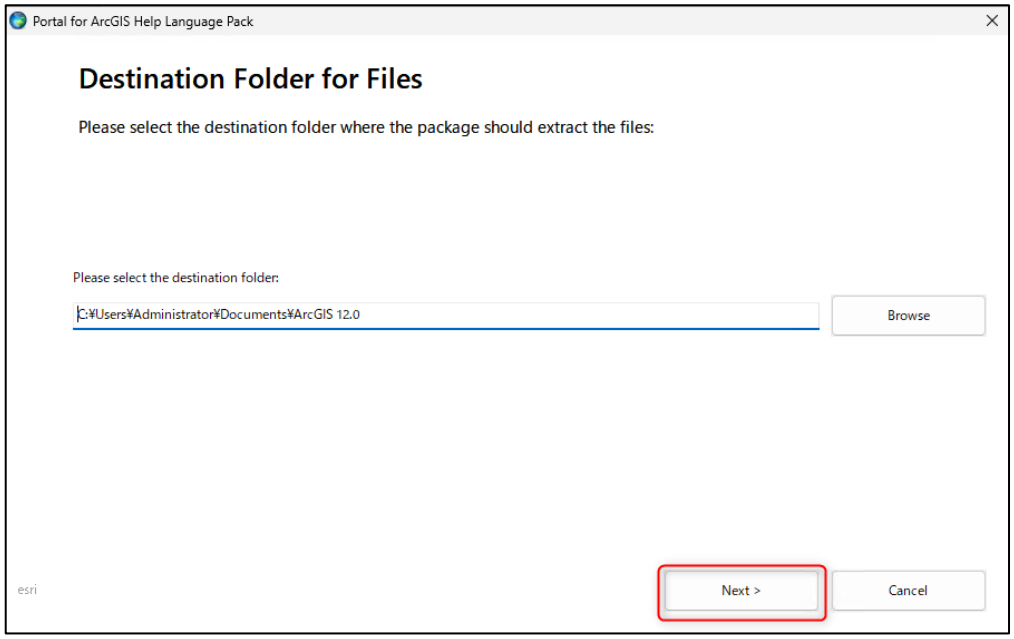
- 本ガイドは、 Portal for ArcGIS のヘルプの言語パックのインストーラーをダウンロードしてインストールする場合を想定しております。ISO ファイルをダウンロードしてインストールする場合は、ArcGIS Enterprise の ISO ファイルに含まれているインストーラーを使用してください。製品メディアからインストールする場合は、製品メディアに含まれているインストーラーを使用してください。

1. My Esri からダウンロードした Portal for ArcGIS ヘルプの言語パックのインストーラーをダブルクリックし、インストーラーを展開します。展開先のフォルダーを指定して、[Next] をクリックします。

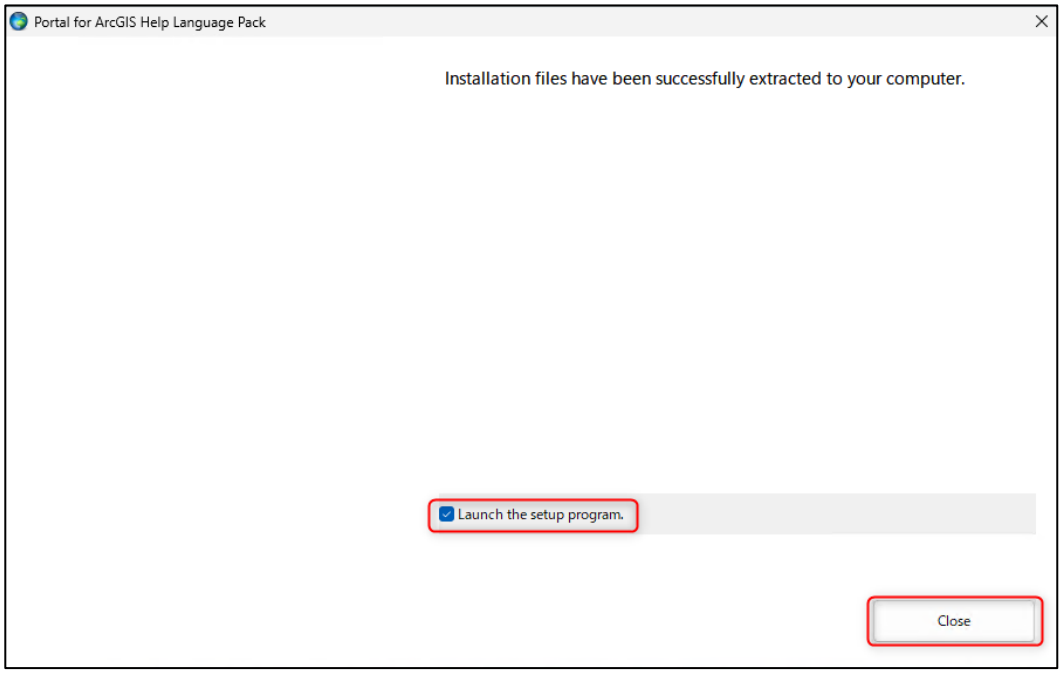
   Portal for ArcGIS の場合：Portal_for_ArcGIS_Help_LP_<バージョン>_<number>.exe

   ArcGIS Server の場合：ArcGIS_Server_Help_LP_<バージョン>_<number>.exe

   ArcGIS Data Store の場合：ArcGIS_DataStore_Help_LP_<バージョン>_<number>.exe

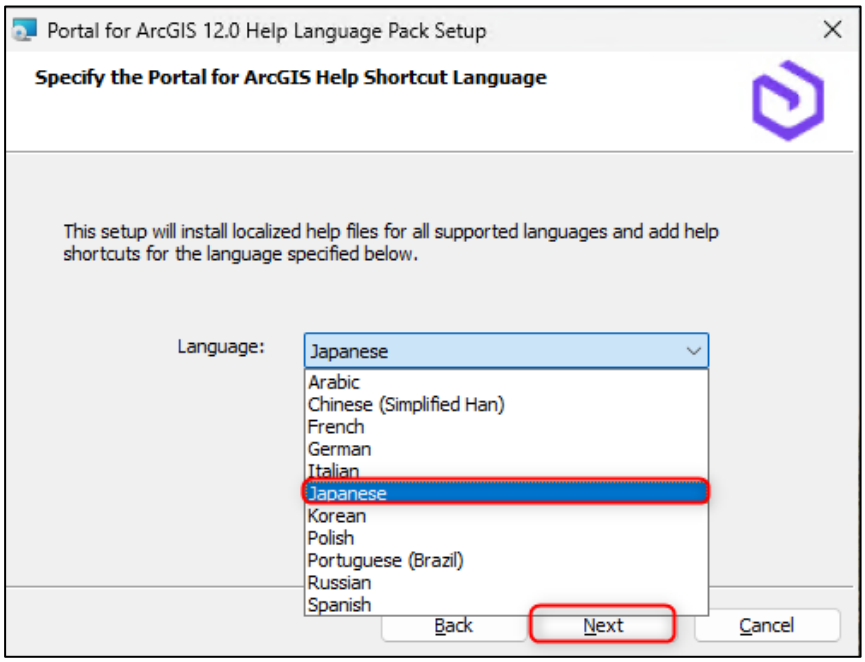


2. 展開が終わると下図が表示されます。[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックします。[Close] をクリックすると、インストーラーが起動します。



3. [Next] をクリックします。

4. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は、[I accept the license agreement] を選択し、[Next] をクリックします。
5. [Language] の横のドロップダウン リストからインストールする言語を選択します。ここでは日本語のヘルプをインストールするため [Japanese] を選択し、[Next] をクリックします。



6. [Install] をクリックしてインストールを開始します。

7. [Finish] をクリックしてインストールを終了します。

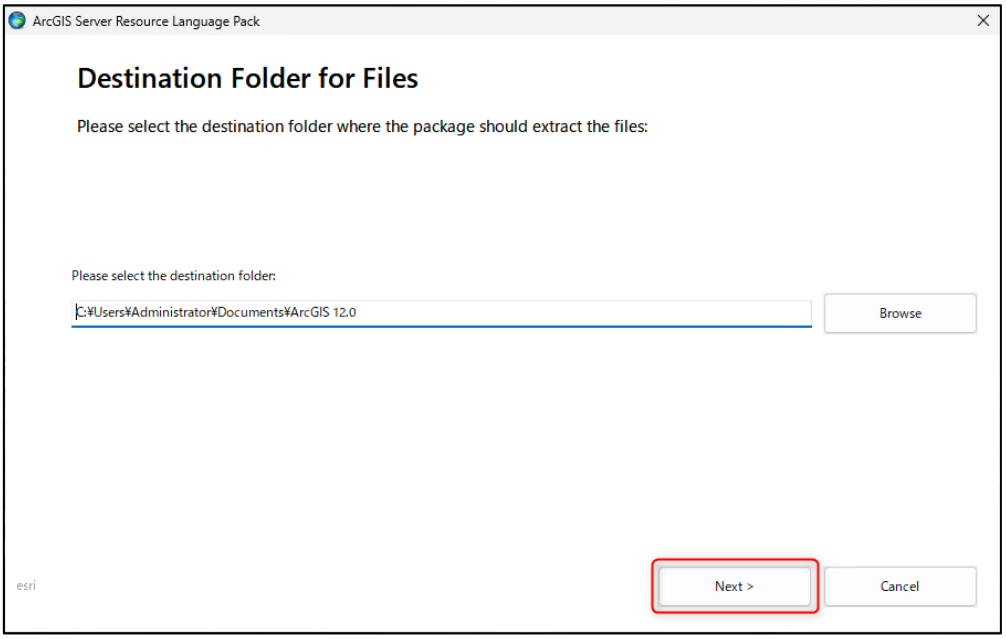
8. インストール後、スタート メニュー内にある「Portal ユーザー ガイド」、「ArcGIS Server ヘルプ」および「Data Store ヘルプ」または、以下の URL より日本語化されたヘルプにアクセスしてください。
   Portal for ArcGIS の場合：https://<FQDN or マシン名>:7443/help/ja/portal
   ArcGIS Server の場合：https://<FQDN or マシン名>:6443/arcgis/help/ja/server
   ArcGIS Data Store の場合：https://<FQDN or マシン名>:2443/arcgis/help/ja/data-store

7.5. リソースの日本語化

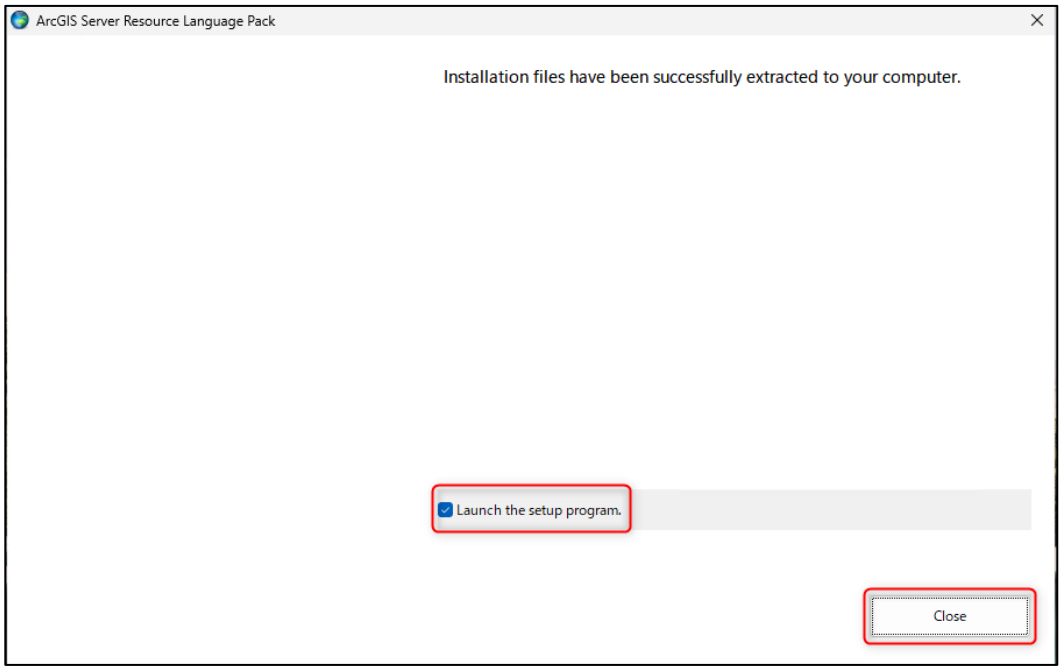
ArcGIS Enterprise 12.0 から ArcGIS Server では、ログやメッセージをローカライズする ArcGIS Server リソース言語パックの提供が新たに開始されました。ArcGIS Server リソース言語パックをインストールする場合は、以下の作業を行ってください。

1. My Esri からダウンロードした ArcGIS Server リソース言語パックのインストーラーをダブルクリックし、インストーラーを展開します。展開先のフォルダーを指定して、[Next] をクリックします。

   ArcGIS_Server_Resource_LP_<バージョン>_<number>.exe



2. 展開が終わると下図が表示されます。[Launch the setup program.] にチェックがついている状態で [Close] をクリックします。[Close] をクリックすると、インストーラーが起動します。



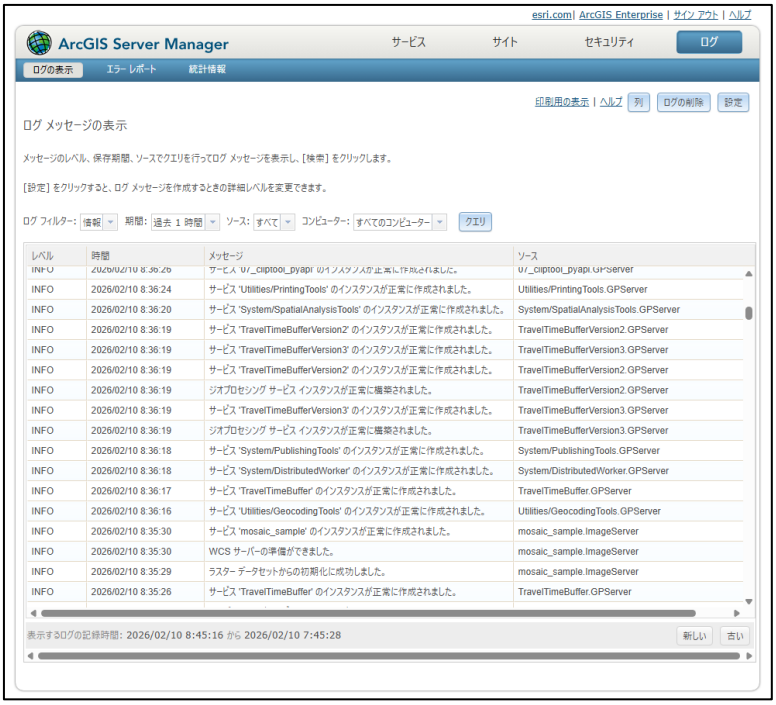
3. [Next] をクリックします。

4. 使用許諾契約書に同意いただいた場合は、[I accept the master agreement] を選択し、[Next] をクリックします。

5. [Install] をクリックしてインストールを開始します。

6. [Finish] をクリックしてインストールを終了します。

インストールが完了すると、ArcGIS Server Manager のログ メッセージが一部ローカライズされます。


esri.com | ArcGIS Enterprise | サイン アウト | ヘルプ
ArcGIS Server Manager
サービス
サイト
セキュリティ
ログ
ログの表示
エラー レポート
統計情報
印刷用の表示 | ヘルプ
列
ログの削除
設定
ログ メッセージの表示
メッセージのレベル、保存期間、ソースでクエリを行ってログ メッセージを表示し、[検索] をクリックします。
[設定] をクリックすると、ログ メッセージを作成するときの詳細レベルを変更できます。
ログ フィルター: 情報
期間: 過去 1 時間
ソース: すべて
コンピューター: すべてのコンピューター
クエリ
レベル
時間
メッセージ
ソース
INFO 2026/02/10 8:36:24 サービス 'Utilities/PrintingTools' のインスタンスが正常に作成されました。 Utilities/PrintingTools.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:20 サービス 'System/SpatialAnalysisTools' のインスタンスが正常に作成されました。 System/SpatialAnalysisTools.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:19 サービス 'TravelTimeBufferVersion2' のインスタンスが正常に作成されました。 TravelTimeBufferVersion2.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:19 サービス 'TravelTimeBufferVersion3' のインスタンスが正常に作成されました。 TravelTimeBufferVersion3.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:19 サービス 'TravelTimeBufferVersion2' のインスタンスが正常に作成されました。 TravelTimeBufferVersion2.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:19 ジオプロセシング サービス インスタンスが正常に構築されました。 TravelTimeBufferVersion2.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:19 サービス 'TravelTimeBufferVersion3' のインスタンスが正常に作成されました。 TravelTimeBufferVersion3.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:19 ジオプロセシング サービス インスタンスが正常に構築されました。 TravelTimeBufferVersion3.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:18 サービス 'System/PublishingTools' のインスタンスが正常に作成されました。 System/PublishingTools.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:18 サービス 'System/DistributedWorker' のインスタンスが正常に作成されました。 System/DistributedWorker.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:17 サービス 'TravelTimeBuffer' のインスタンスが正常に作成されました。 TravelTimeBuffer.GPServer
INFO 2026/02/10 8:36:16 サービス 'Utilities/GeocodingTools' のインスタンスが正常に作成されました。 Utilities/GeocodingTools.GPServer
INFO 2026/02/10 8:35:30 サービス 'mosaic_sample' のインスタンスが正常に作成されました。 mosaic_sample.ImageServer
INFO 2026/02/10 8:35:30 WCS サーバーの準備ができました。 mosaic_sample.ImageServer
INFO 2026/02/10 8:35:29 ラスター データセットからの初期化に成功しました。 mosaic_sample.ImageServer
INFO 2026/02/10 8:35:26 サービス 'TravelTimeBuffer' のインスタンスが正常に作成されました。 TravelTimeBuffer.GPServer
表示するログの記録時間: 2026/02/10 8:45:16 から 2026/02/10 7:45:28
新しい
古い

8. 参考情報

8.1. サービス URL を別の URL に変更する方法

ArcGIS Server および Portal for ArcGIS のサービス URL を、パブリック DNS やリバース プロキシ サーバーの URL など、別の URL に変更する手順について記載します。

8.1.1. ArcGIS Server の設定手順

注意：この設定は Portal for ArcGIS を ArcGIS Server サイトとフェデレートする前に行ってください。

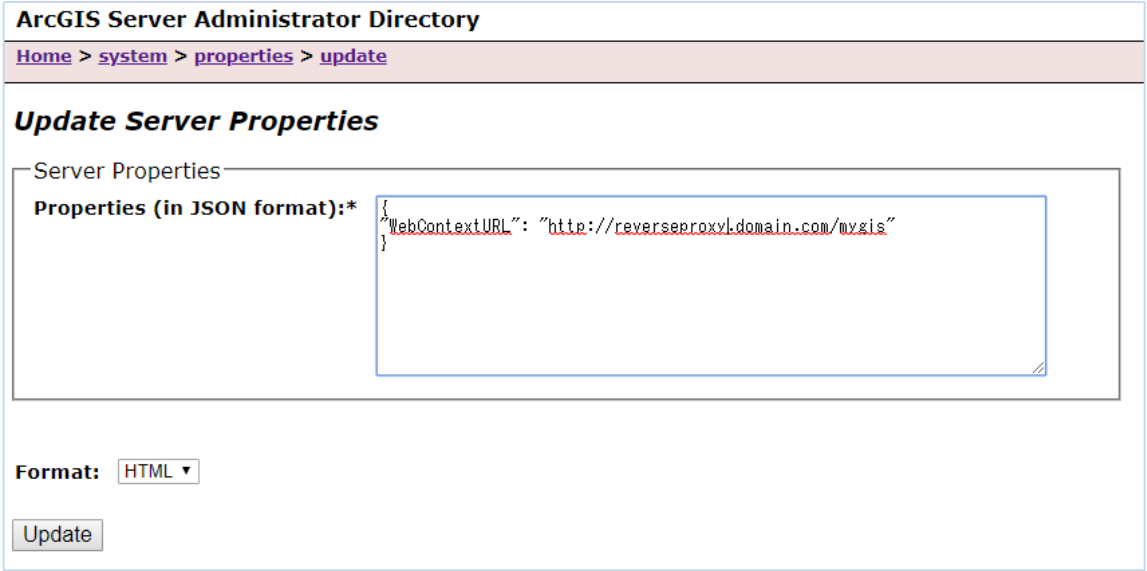
1. Web ブラウザーから ArcGIS Server Administrator Directory にサイン インします。
   https://<マシン名 or FQDN>:6443/arcgis/admin

2. [System] → [Properties] → [Update] とリンクをクリックします。

3. [Update Server Properties] の項目に JSON 情報を記述し、サービス URL を、設定したい URL に変更します。
   "WebContextURL":"https://<サービス URL>"
   [WebContextURL] は、ユーザーがアクセスするサービスのエンド ポイントを定義するパラメータになります。以下では、ケース別に WebContextURL の設定方法を記載します。

   ・Web サーバーのパブリック DNS で ArcGIS Server へアクセスする場合
   Azure や AWS などのクラウド環境に ArcGIS Enterprise の基本構成を構築し、Web サーバーのパブリック DNS を使用して ArcGIS Server へアクセスする場合は、以下のように設定します。
   "WebContextURL":"https://<Web サーバーのパブリック DNS>/<Web Adaptor 名>"

   ・ロード バランサー（LB）やリバース プロキシを介して ArcGIS Server へアクセスする場合
   LB やリバース プロキシを介して ArcGIS Server へアクセスする場合は、以下のように設定します。
   "WebContextURL":"https://<LB やリバース プロキシの FQDN>/<Web Adaptor 名>"



4. [Update] をクリックします。

8.1.2. Portal for ArcGIS の設定手順

注意：この設定は Portal for ArcGIS を ArcGIS Server サイトとフェデレートする前に行ってください。

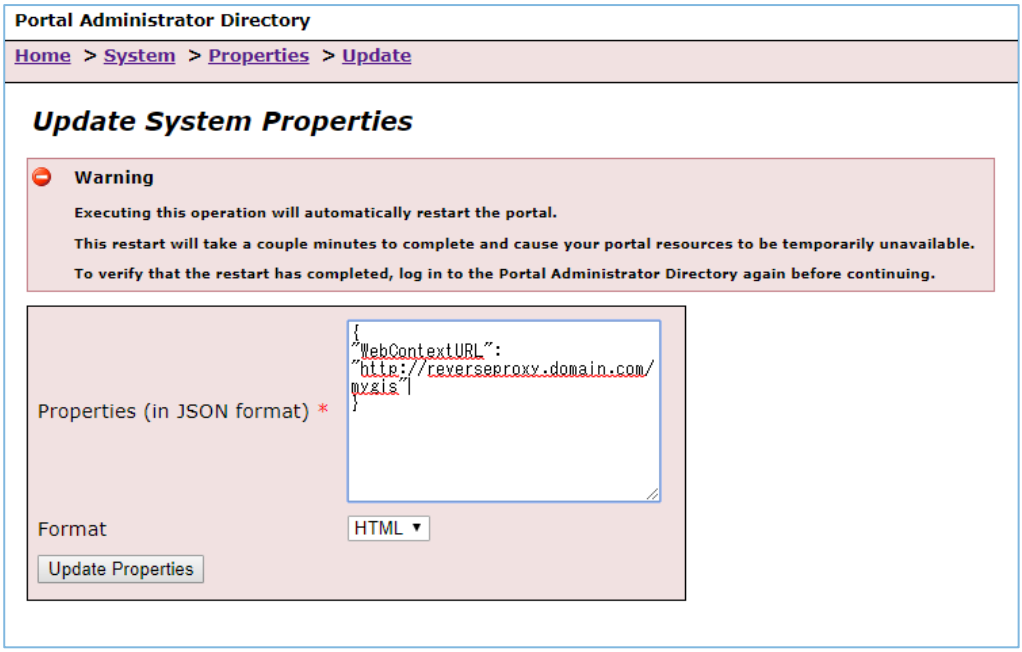
1. Web ブラウザーから Portal Administrator Directory にサイン インします。
   https://<マシン名 or FQDN>:7443/arcgis/portaladmin

2. [System] → [Properties] → [Update Properties] とリンクをクリックします。

3. [Update Server Properties] の項目に JSON 情報を記述し、サービス URL を、設定したい URL に変更します。
   "WebContextURL":"https://<サービス URL>"
   ArcGIS Server と同様に、Portal for ArcGIS においても、ケース別に WebContextURL の設定方法を記載します。

   ・Web サーバーのパブリック DNS で Portal for ArcGIS へアクセスする場合
   Azure や AWS などのクラウド環境に ArcGIS Enterprise の基本構成を構築し、Web サーバーのパブリック DNS を使用して Portal for ArcGIS へアクセスする場合は、以下のように設定します。
   "WebContextURL":"https://<Web サーバーのパブリック DNS>/<Web Adaptor 名>"

   ・ロード バランサー（LB）やリバース プロキシを介して Portal for ArcGIS へアクセスする場合
   LB やリバース プロキシを介して Portal for ArcGIS へアクセスする場合は、以下のように設定します。
   "WebContextURL":"https://<LB やリバース プロキシの FQDN>/<Web Adaptor 名>"



4. [Update Properties] をクリックします。

- 設定の詳細については以下のヘルプをご参照ください。

  「ArcGIS Server でのリバース プロキシ サーバーの構成」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/deploy/windows/using-a-reverse-proxy-server-with-arcgis-server.htm

  「ポータルと、リバース プロキシまたはロード バランサーの統合」
  https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/using-a-reverse-proxy-server-with-portal-for-arcgis.htm

8.2. Portal for ArcGIS から ArcGIS Server をフェデレート解除する方法

今後、ArcGIS Server と Portal for ArcGIS を連携して利用する必要がなくなった場合、フェデレーションを解除することができます。以下では、Portal for ArcGIS から ArcGIS Server をフェデレート解除する手順について記載します。

注意：解除するとホスト サービスを引き続き利用することができなくなり、利用しているアプリケーションに影響が生じるため、通常の運用や一般的なトラブル シューティングで頻繁に解除を行うことは推奨されません。

1. 管理者権限を持つユーザーで、ArcGIS Portal Directory にログインします。
   https://<Portal for ArcGIS のマシン名 or FQDN>:7443/arcgis/portaladmin
2. [Federation] → [Servers] に移動します。Portal for ArcGIS にフェデレートされている ArcGIS Server が表示されます。
3. フェデレート解除する ArcGIS Server をクリックします
4. [Unfederate] をクリックします。
5. [Unfederate Server] をクリックします。ArcGIS Server のフェデレート解除が実行されます。実行後、フェデレートされている ArcGIS Server の一覧ページが表示されます。このページ上で、フェデレート解除を実行した ArcGIS Server が一覧に存在しないことを確認します。
6. フェデレート解除された ArcGIS Server のセキュリティ構成を確認します。ArcGIS Server Administrator Directory に、ArcGIS Server のプライマリ サイト管理者アカウントとしてアクセスします。
   https://<ArcGIS Sewsawarver のマシン名 or FQDN>:6443/arcgis/admin
7. [security] → [config] に移動します。
8. 構成内容を確認します。下図の赤枠のプロパティが以下の通りに設定されていることを確認します。
   Authentication tier：GIS_SERVER+
   Authentication mode：ARCGIS_TOKEN
   Server role：STANDALONE_SERVER

ArcGIS Server Administrator Directory

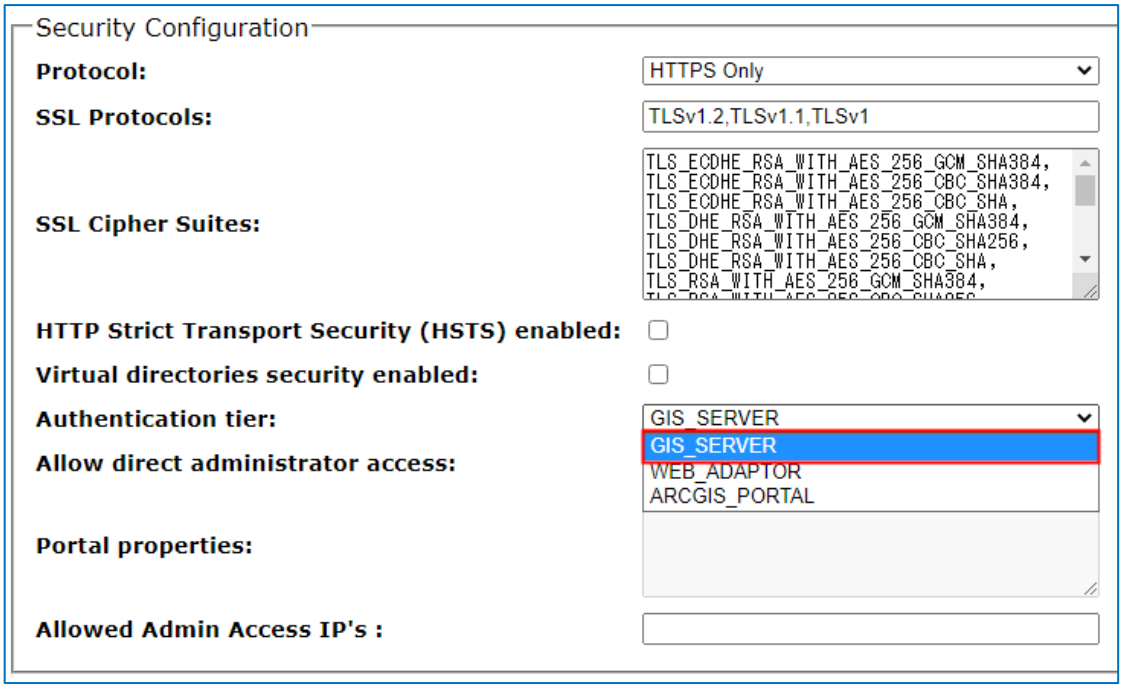
Home > security > config

Security Configuration

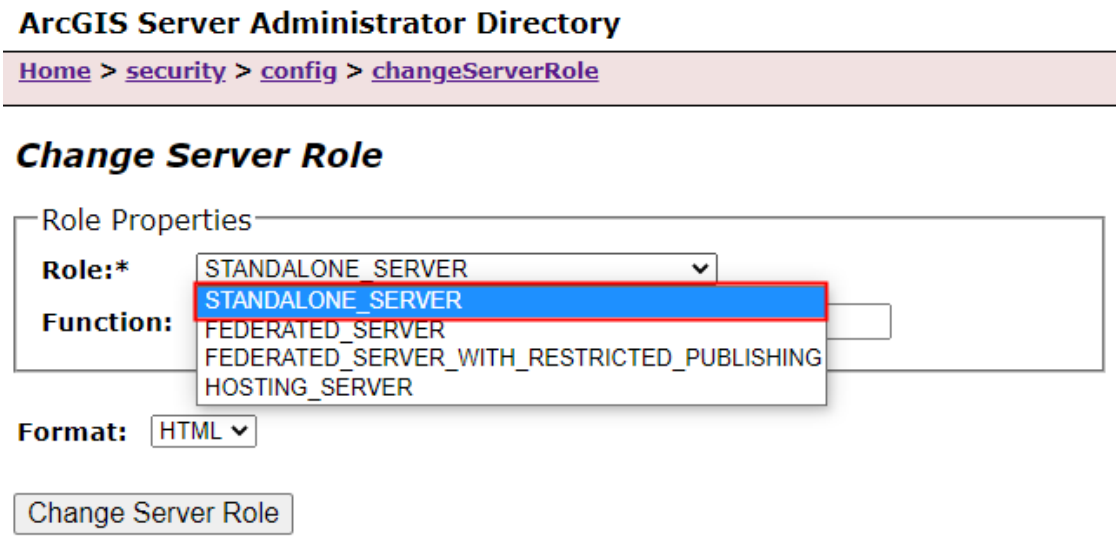
Configuration Properties

Protocol:	**HTTPS Only**
SSL Protocols:	**TLSv1.2**
SSL Cipher Suites:	**TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA, TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384, TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256, TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256, TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA, TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256, TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256, TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA**
HTTP Strict Transport Security (HSTS) enabled	**false**
Security for virtual directories enabled:	**false**
Authentication tier:	**GIS_SERVER+**
Authentication mode:	**ARCGIS_TOKEN**
Server role:	**STANDALONE_SERVER**
Server function:	

9. 上記のプロパティが、記載の通りの設定と異なる場合は設定を変更します。構成画面下の [update] をクリックします。
10. [Authentication tier] で [GIS_SERVER] を選択し、[Update] をクリックします。



11. 構成画面が自動的に表示されます。次に、構成画面下の [changeServerRole] をクリックします。
12. [Role] に [STANDALONE_SERVER] を選択し、[Change Server Role] をクリックします。ArcGIS Server のセキュリティ構成画面が表示され、3 つのプロパティ（Authentication tier、Authentication mode、Server role）が手順 8 で記載した通りの設定になっていることを確認します。



8.3. ヘルプに関する情報

ArcGIS.com には、各コンポーネントの管理操作に関するヘルプが用意されています。こちらも併せてご参照ください。ヘルプ ページを参照される際は、ご使用のバージョンに合わせてページを切り替えてください。

■ Portal for ArcGIS に関する情報

・Portal for ArcGIS のインストール、管理およびセキュリティ保護
https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/administer/windows/what-is-portal-for-arcgis-.htm

・ポータル サイトにおけるトラブル シューティング
https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/use/troubleshoot.htm

・Portal for ArcGIS 管理操作用 REST API
Portal for ArcGIS の管理操作で使用する REST API の使用方法を記載したページです。Portal for ArcGIS の管理操作は、管理用アプリケーションである Portal Administrator Directory でさらに高度な設定（Portal for ArcGIS の読み取り専用モードへの変更など）を行うことが出来ます。Portal Administrator Directory 上で管理操作を行う際は、下記の REST API のヘルプ ページをご参照ください。

・REST API ページ
https://developers.arcgis.com/rest/enterprise-administration/portal/overview-of-portal-administration-in-the-arcgis-rest-api.htm

・Portal Administrator Directory の URL
https://<Portal for ArcGIS のマシン名 or FQDN>:7443/arcgis/portaladmin

■ ArcGIS Server に関する情報

・ArcGIS Server の管理
https://enterprise.arcgis.com/ja/server/latest/administer/windows/administer-arcgis-server.htm

・ArcGIS Enterprise に関するよくある質問
https://enterprise.arcgis.com/ja/portal/latest/use/faq.htm

・ArcGIS Server 管理操作用 REST API

ArcGIS Server の管理操作で使用する REST API の使用方法を記載したページです。ArcGIS Server Manager では行えない管理操作（ArcGIS Web Adaptor の登録解除など）を行う際は、もう 1 つの管理用アプリケーションである ArcGIS Server Administrator Directory を使用します。ArcGIS Server Administrator Directory 上で管理操作を行う際は、下記の REST API のヘルプ ページをご参照ください。

・REST API ページ

https://developers.arcgis.com/rest/enterprise-administration/server/overview.htm

・ArcGIS Server Administrator Directory の URL

https://< ArcGIS Server のマシン名 or FQDN >:6443/arcgis/admin

ArcGIS Enterprise 基本構成 セットアップ ガイド

（バージョン 12.x 版）

2026 年 9 月 1 日　第 2 版

ESRI ジャパン株式会社

https://www.esrij.com/

Copyright(C) Esri Japan. 無断転載を禁ず

本書に記載されている社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

本書に記載されている内容は改良のため、予告なく変更される場合があります。

本書の内容は参考情報の提供を目的としており、本書に含まれる情報はその使用先の自己の責任において利用して頂く必要があります。

esri ジャパン